

**第6次犬山市総合計画改訂に向けた
市民アンケート調査報告書
【概略版(速報)】**

令和8年8月

目 次

1. 概況.....	3
1)回答者属性	3
2)あなたの価値観について	3
3)犬山市での暮らしとまちの印象について	3
4)犬山市の住みやすさについて.....	3
5)犬山市のまちの印象について.....	3
6)今後のまちづくりについて.....	4
7)社会情勢(その他)について.....	4
8)達成指標となる「市民の割合」の変化.....	5
2. 調査結果詳細【速報版】	6
1)あなた(回答者)ご自身や家族構成について.....	6
2)あなたの価値観について	11
3)犬山市での暮らしとまちの印象について	13
4)犬山市の住みやすさについて.....	17
5)犬山市のまちの印象について.....	26
6)今後のまちづくりについて.....	40
7)社会情勢(その他)について.....	43

1. 概況

1) 回答者属性

回答者は女性がやや多く、年齢は 60 歳以上の割合が高い。世帯は配偶者との同居、2 人世帯、持ち家・戸建て住宅が中心で、居住年数 30 年以上の長期居住者が半数を超える。

地区別では犬山地区が約半数を占め、全体として地域への定着度が高い回答者構成である。

2) あなたの価値観について

生活の中で大切にしているものは「健康」「家庭」「自分らしく過ごす時間」が上位であり、安心して暮らし、自分や家族の生活を大切にしたいという志向が強い。

年齢別では若年層で趣味やワークライフバランス、30～40 歳代の子育て世代で家庭・子育て、高齢層で健康を重視する傾向がみられ、ライフステージに応じた支援の必要性がうかがえる。

今後は健康づくり、家族・子育て・介護支援、余暇や自己実現の場づくりを基盤としつつ、地域とのつながりや居場所づくりを無理なく広げる取組が必要とされる。

3) 犬山市での暮らしとまちの印象について

犬山市は住むまちとしての魅力の評価が高く、自然環境、安全安心、まちへの愛着が市民の暮らしの基盤となっている。一方で、現状の満足度は住むまちとしての魅力の評価ほど高くなく、市民活動への参加も低い。

まちの魅力に対する評価は定住意向と強く結びついており、自然・歴史文化・安全性といった犬山市の強みを活かしつつ、暮らしの不便さを改善して、暮らしの満足度につなげることが重要である。

4) 犬山市の住みやすさについて

犬山市の定住意向は、自然環境、歴史文化、安全性などの強みがあるまちへの愛着につながっている。男性は自然・安全・愛着を重視する傾向がみられ、女性は地域での人間関係や日常生活の支えが定住の理由となっている。

一方、住み続けたくない理由では買い物・外食の不便さ、公共交通の不便さ、医療サービスの不足が突出しており、生活圏の中で生活の利便性と公共交通の利便性などの暮らしに必要なサービスを受けられるかが定住意向に影響している。

本市の強みとなる地域資源を守りながら、日常生活の利便性を高めることで、観光都市としての魅力と生活都市としての満足度を両立させていくことが重要である。

5) 犬山市のまちの印象について

まちの印象では、歴史文化・観光・自然・治安への評価が高く、犬山市の強みが明確である。一方で、魅力ある商店や買い物の利便性、公共交通、空き家・空き地、医療・福祉、若者の活躍については評価が低い。

6) 今後のまちづくりについて

今後、目指すべきまちとしては、医療サービス、商業の振興、公共交通の利便性向上、福祉サービスの充実が上位に挙がり、市民ニーズは生活を支える基礎的機能に集中している。

全体としては、新たな市街地開発よりも、空き家対策や生活道路整備など既存住宅地の住環境向上を求める意向が強く、今後の住宅政策においてもストック活用を重視したまちづくりが求められる。

災害対策では避難場所・避難路、浸水・土砂災害対策への関心が高く、地域ごとの暮らしやすさを高める施策が重要である。

7) 社会情勢(その他)について

■生活（物価高騰）

物価高騰の影響は食料品・日用品を中心に広く及んでおり、支出を抑える対象は外食、衣服、旅行、娯楽などに広がっている。特に男性は自動車や外食、女性や30～50歳代の子育て・就業世代では生活必需品、65歳以上の高齢者では医療費への負担感が目立つ。必要な支援は食費・住居・光熱費など日常生活費が圧倒的であり、商品券や水道料金軽減など効果を実感しやすい支援が評価されている。

地域経済の面では、外食や買い物、観光・娯楽消費の縮小が市内商業にも影響する可能性があるため、一律給付の地域消費喚起と、高齢層への医療費や低所得者への家計構造に応じた経済施策を組み合わせしていく必要がある。

■市の情報

若年層ほど市の情報が十分届いていない傾向がみられることから、広報紙による情報発信を維持しつつ、LINEなどデジタル媒体を活用した情報発信の強化が求められる。

また、住むまちいぬやまの事業認知度は全体として低いものの、子育て世代を中心に一定の認知がみられることから、若年層向けにはSNSやデジタル媒体、高齢層向けには広報紙等を活用するなど、世代に応じた情報発信の強化が求められる。

■女性活躍

女性の定住促進には、子育て・介護・仕事との両立支援に加え、日常生活の利便性、治安の良さ、医療福祉サービスの充実を総合的に整えることが重要である。

特に女性は仕事との両立支援に加え、日常生活の買い物の利便性や安全性、医療・福祉サービスの充実などを総合的に重視する傾向がみられるため、仕事との両立支援と日常生活の利便性などを一体的に進めることで、女性に選ばれるまちとしての魅力向上が期待される。

8) 達成指標となる「市民の割合」の変化

第6次犬山市総合計画にて設定した「達成指標」の進捗状況については以下のとおりである。

「3-2 安全・安心を実感し、心豊かに暮らしている市民の割合」については5.8%減少しているものの、他の指標については増加

基本目標1 誰もが育ち、楽しみ、活躍できるまちへ

施策 番号	指 標	現行計画値 (時点)	2026 目標値 (目指す方向)	現状値 (時点)
1-1 (3)	「子育てをしやすいまち」だと思う市民の割合	42.7% (R3(2021))	↗	45.8% (R8(2026))
1-3 (13)	「生涯学習活動が盛んなまち」だと思う市民の割合	31.3% (R3(2021))	↗	37.2% (R8(2026))
1-3 (14)	「スポーツする環境が整ったまち」だと思う市民の割合	39.1% (R3(2021))	↗	42.1% (R8(2026))
1-4 (17)	「歴史を大切にし、文化財が保存活用されたまち」だと思う市民の割合	81.2% (R3(2021))	↗	82.1% (R8(2026))

基本目標2 産業が栄えるまちへ

※市民アンケート調査での指標については該当なし

基本目標3 人にも地球にもやさしいまちへ

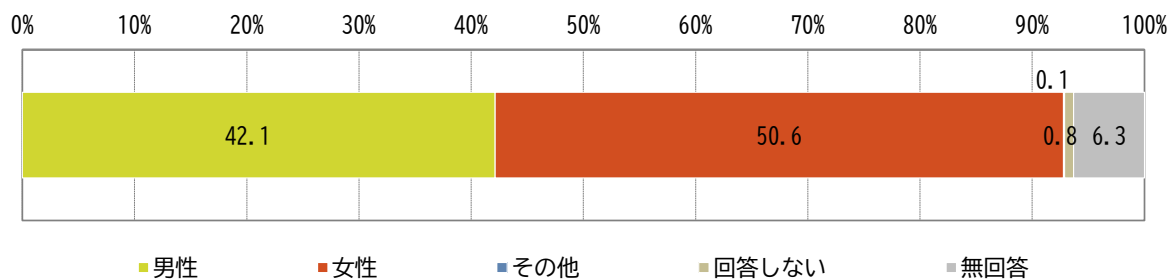
施策 番号	指 標	現行計画値 (時点)	2026 目標値 (目指す方向)	現状値 (時点)
3-1 (32)	「市内での買い物が便利なまち」だと思う市民の割合	28.3% (R3(2021))	↗	33.4% (R8(2026))
3-1 (33)	「住環境が整備されたまち」だと思う市民の割合	40.1% (R3(2021))	↗	44.1% (R8(2026))
3-1 (34)	「道路や橋などのインフラが適切に管理されたまち」だと思う市民の割合	35.1% (R3(2021))	↗	42.4% (R8(2026))
3-1 (35)	「公共交通が便利なまち」だと思う市民の割合	34.7% (R3(2021))	↗	40.0% (R8(2026))
3-2 (41)	安全・安心を実感し、心豊かに暮らしている市民の割合	82.4% (R3(2021))	↗	76.6% (R8(2026))
3-3 (45)	自然環境が、大切に保全されていると感じている市民の割合	72.8% (R3(2021))	↗	81.6% (R8(2026))

2. 調査結果詳細【速報版】

1) あなた(回答者)ご自身や家族構成について

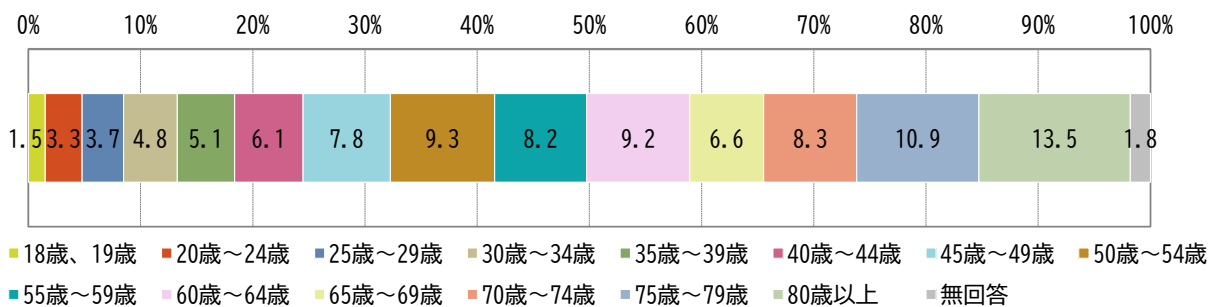
性別

N = 1658



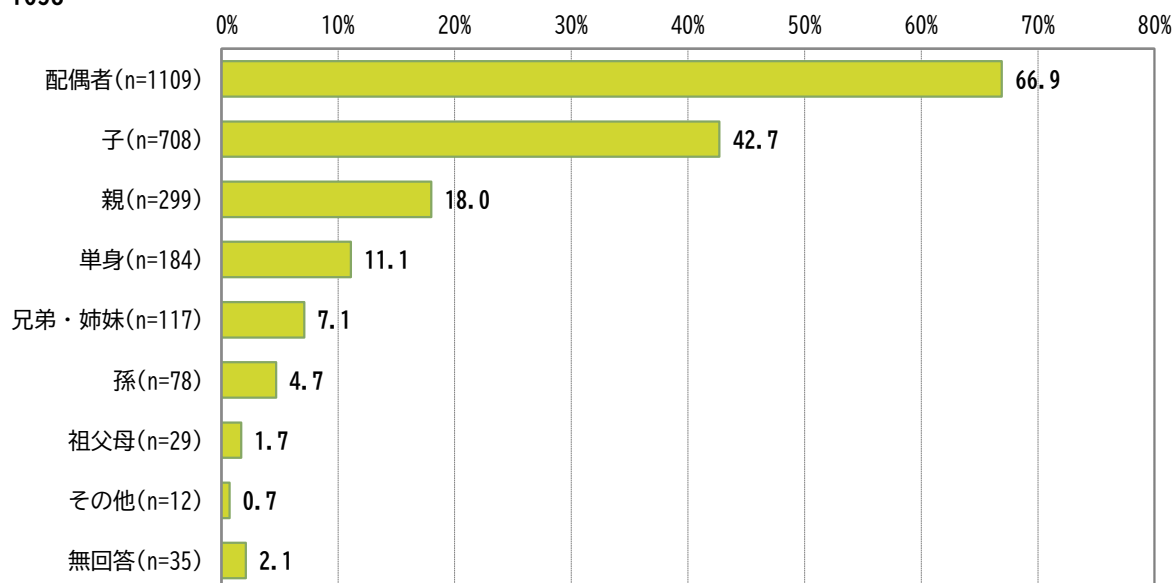
年齢

N = 1658



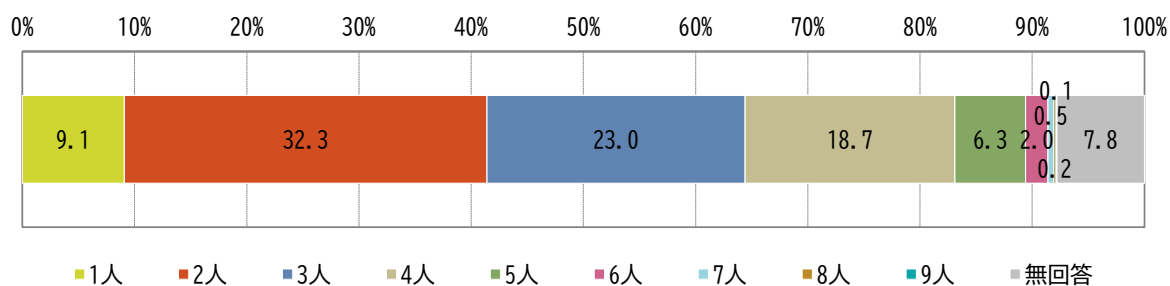
家族構成

N = 1658



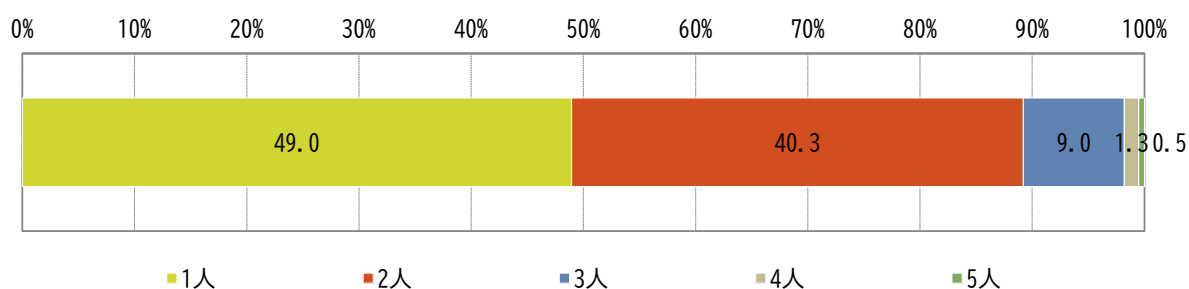
世帯人数

N = 1658



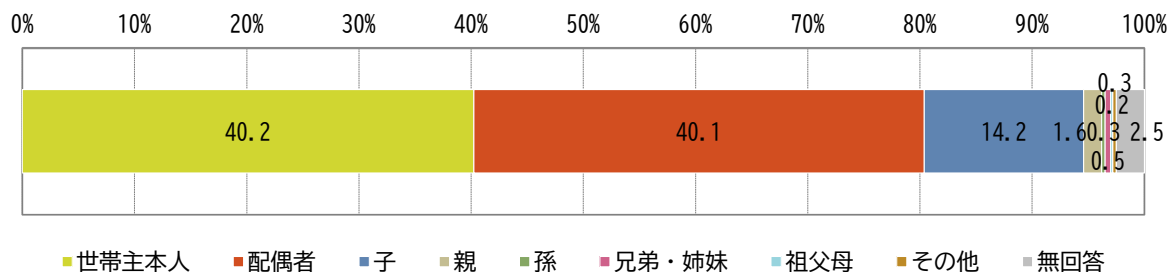
うち子ども（18歳未満）

N = 400



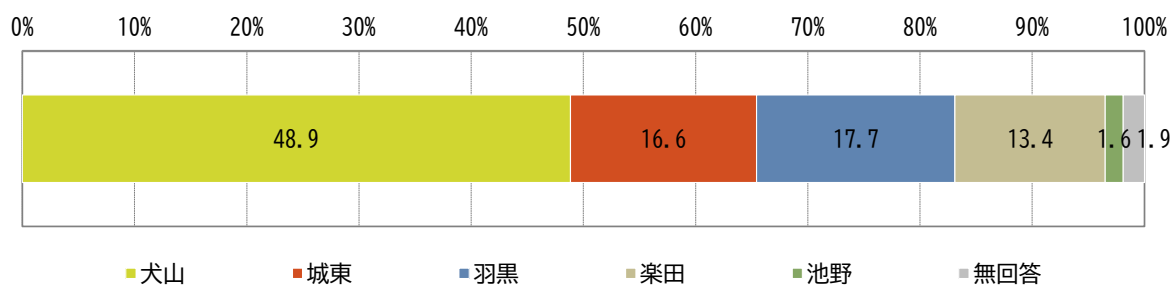
世帯主からみた続柄

N = 1658



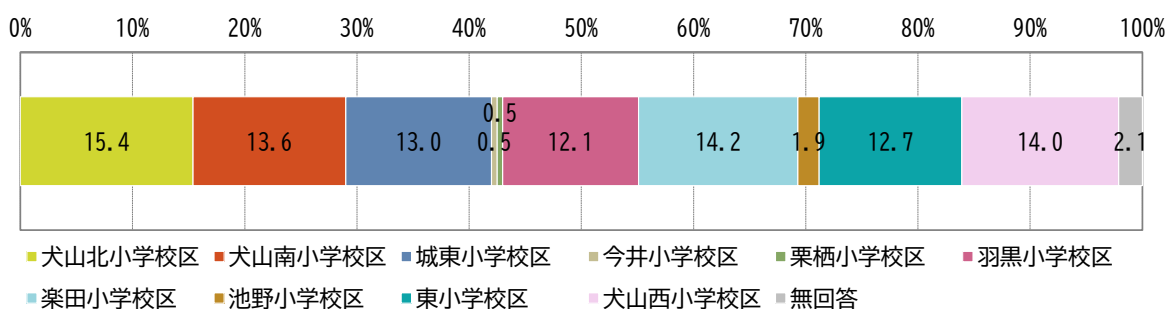
お住まいの地区

N = 1658



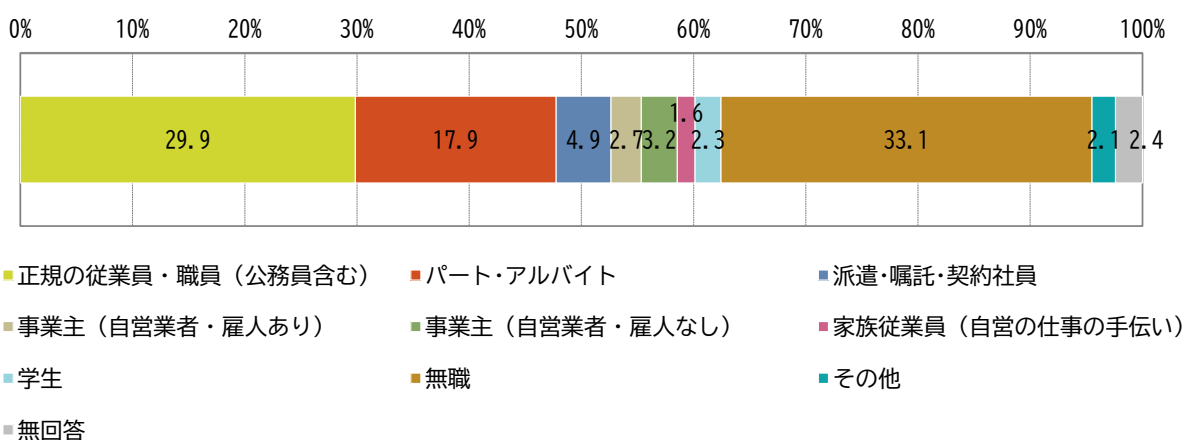
お住まいの小学校区

N = 1658



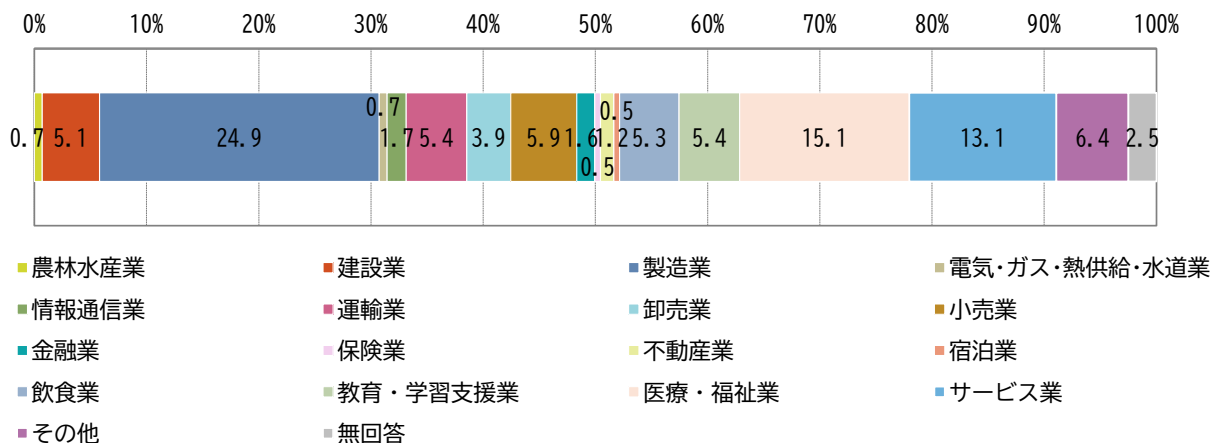
おつとめなどの状況 ※複数に該当する場合は主たる状況を選択

N = 1658



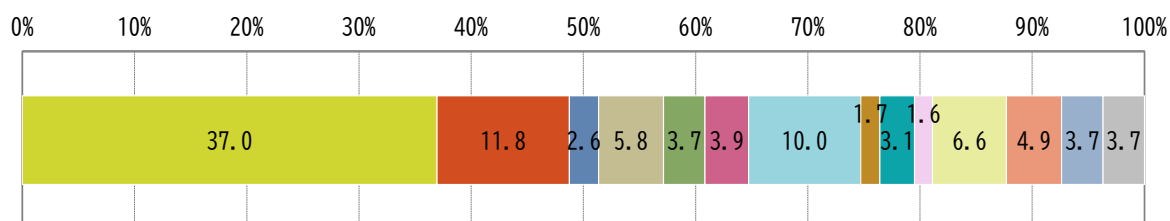
おつとめ先の業種

N = 1031



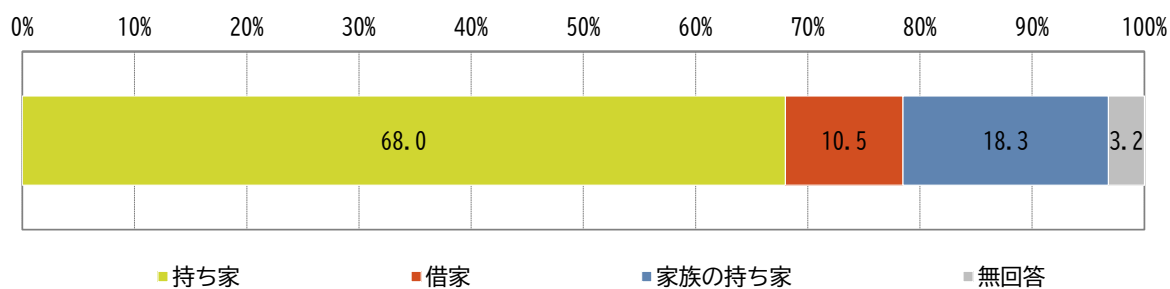
勤務先・通勤通学先

N = 1109



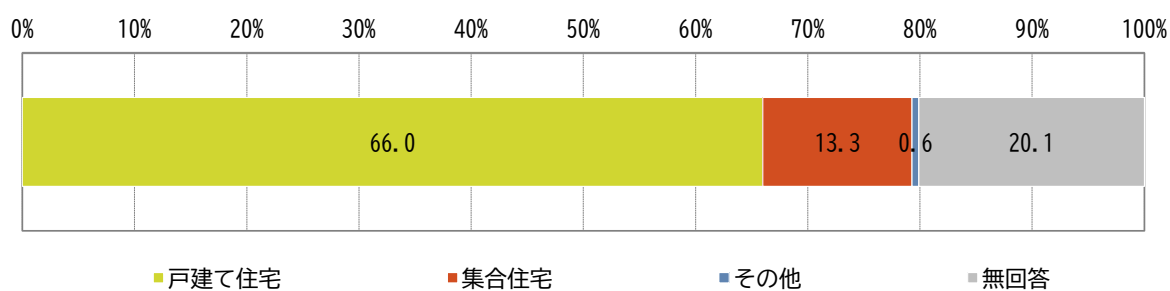
住まい 所有形態

N = 1658



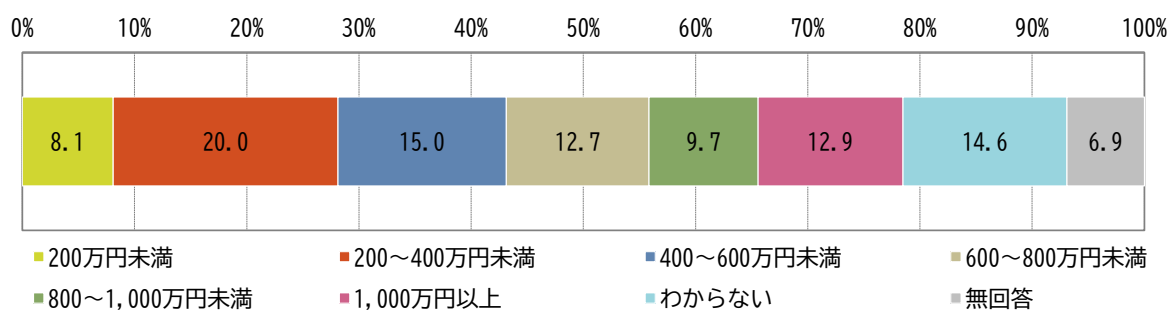
住まい 住宅の種類

N = 1658



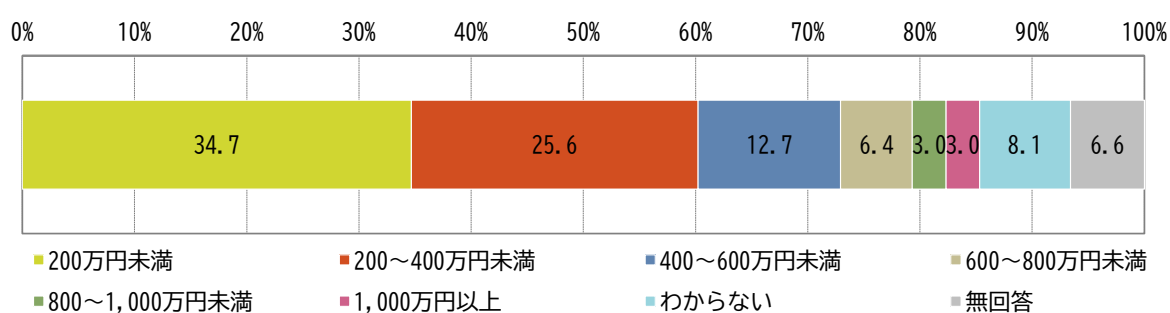
世帯年収

N = 1658



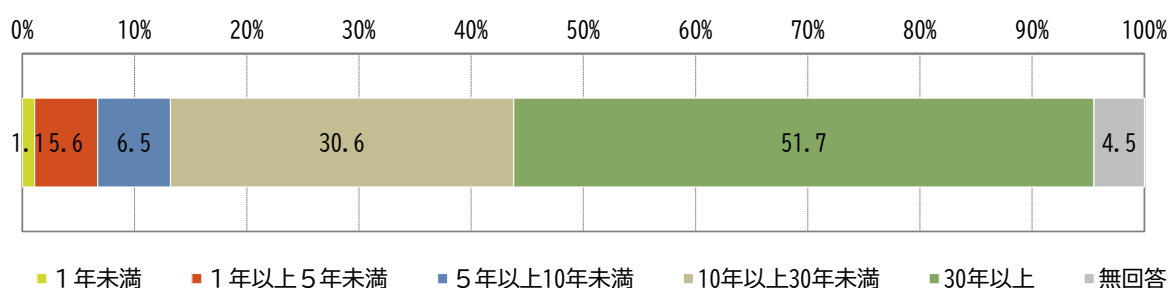
個人年収

N = 1658



犬山市内での通算居住年数

N = 1658



2)あなたの価値観について

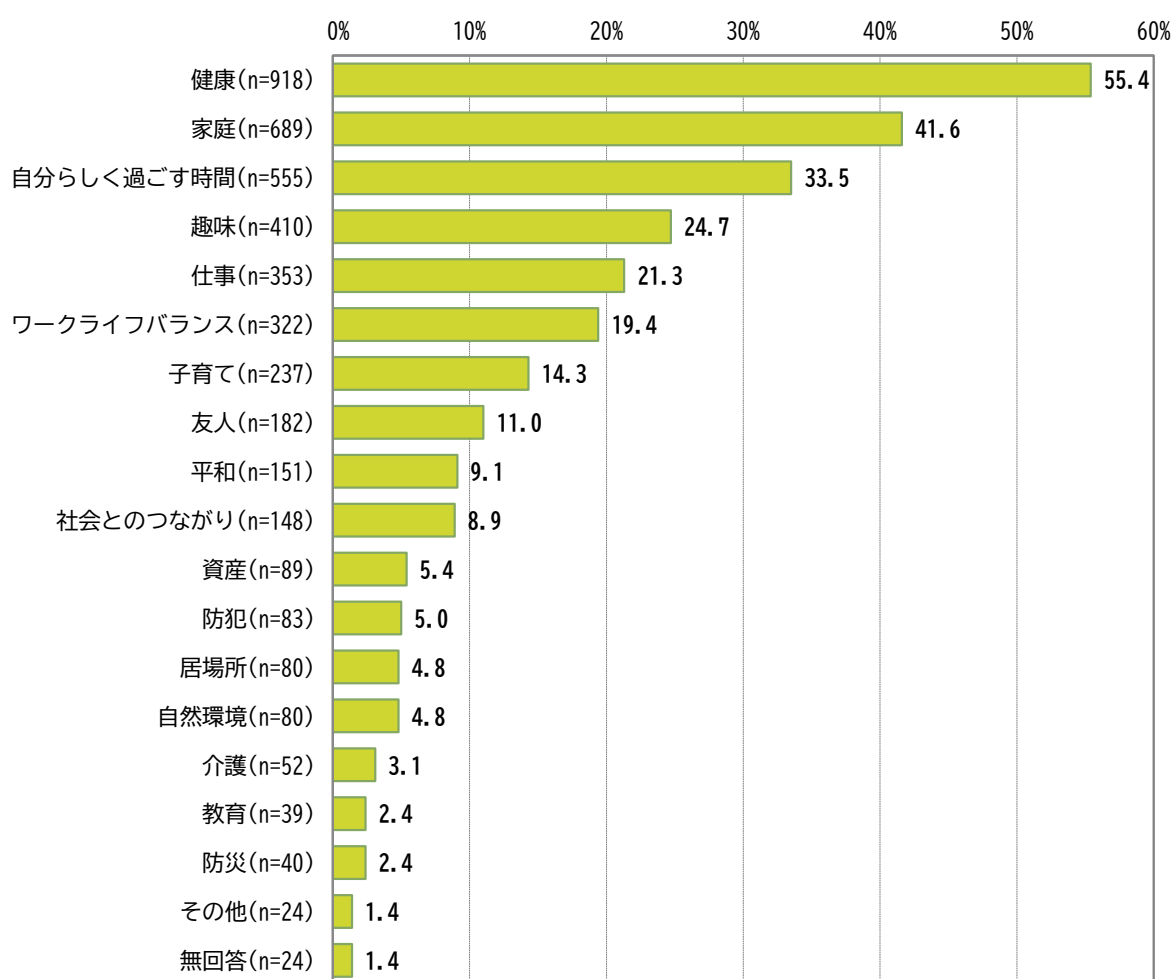
問1 今の生活の中で大切にしているものは何ですか。

(3つまで○)

回答は「健康」が55.4%と最も高く、次いで「家庭」41.6%、「自分らしく過ごす時間」33.5%となっており、日常生活における健康・家庭や自分の時間を重視する傾向が強い。

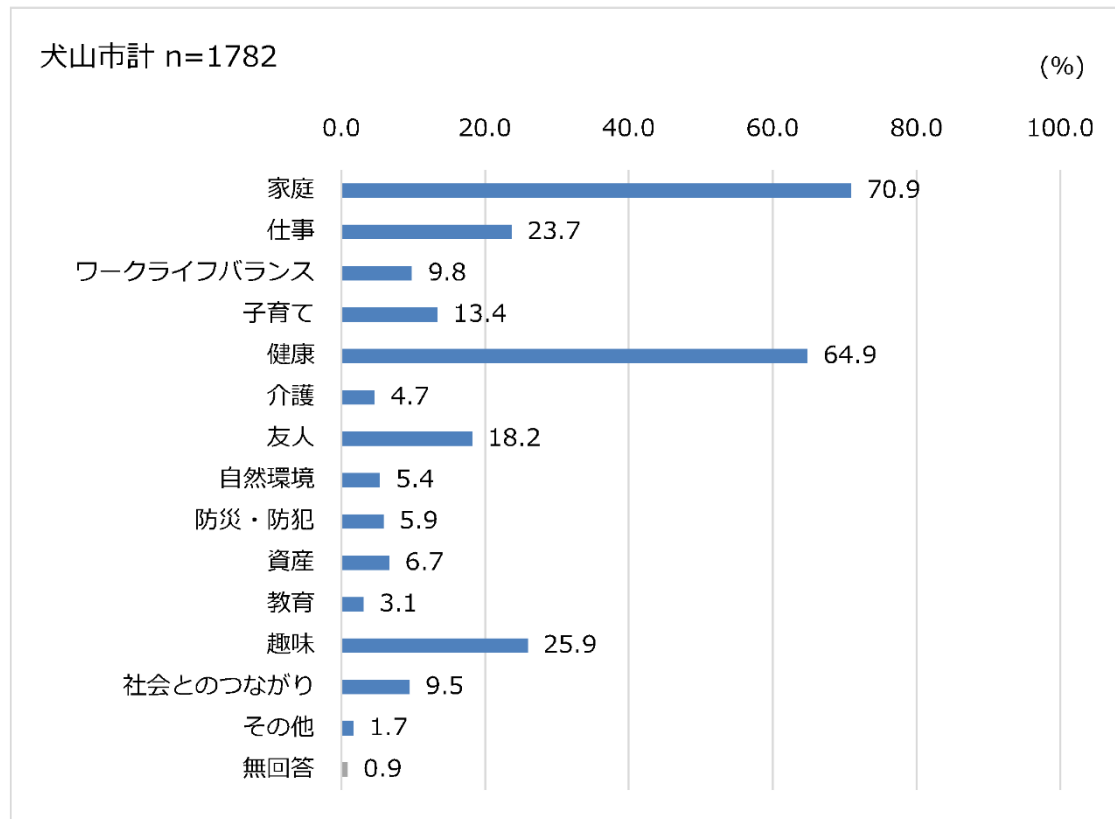
一方で、「社会とのつながり」8.9%、「居場所」4.8%などは相対的に低く、個人や家庭を中心とした価値観が重視されている。

N = 1658



■令和3年度調査

▼今の生活で大切にしているもの

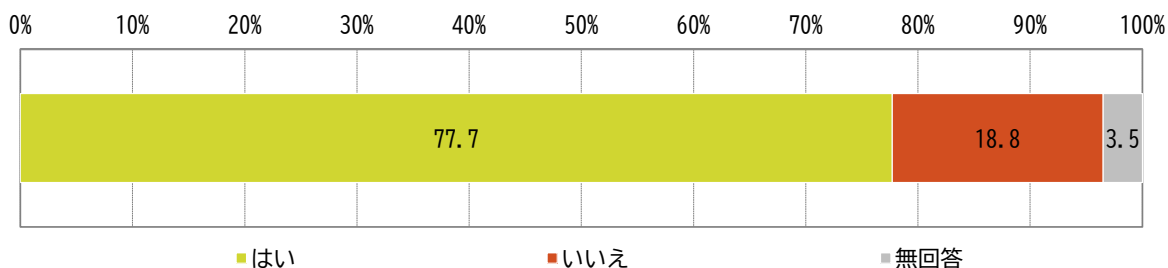


3)犬山市での暮らしとまちの印象について

問2 総合的にみて、犬山市は住むまちとして魅力あるまちだと思いますか。（3つまで○）

犬山市を「住むまちとして魅力あるまち」と考える回答は77.7%に達しており、市全体への評価は高い。ただし、「いいえ」も18.8%あり、一定数の市民は魅力を十分に感じていない。

N = 1658



問2 総合的にみて、犬山市は住むまちとして魅力あるまちだと思いますか。

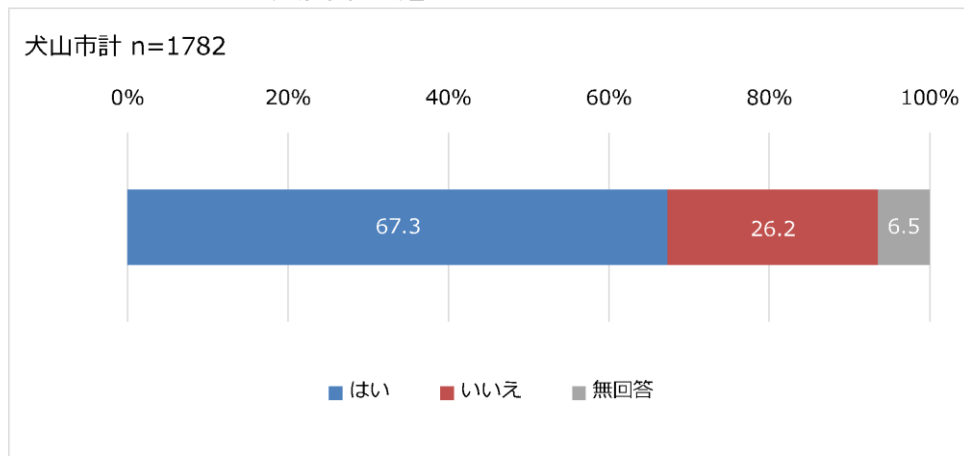
×問8 これからも犬山市に住み続けたいと思いますか。

犬山市を魅力あるまちだと思う人では「これからも住み続けたい」が76.7%と高い一方、魅力を感じていない人では37.9%にとどまり、「他の市町村へ移りたい」が31.4%まで高まる。

上段:度数 下段:%	合計	これからも住み続けたい	住み続けたいが、 他の市町村に移る かもしれない	市内の他の場所に 移りたい	他の市町村へ移 りたい
全体	1590 100.0	1100 69.2	334 21.0	32 2.0	124 7.8
はい	1281 100.0	983 76.7	254 19.8	17 1.3	27 2.1
いいえ	309 100.0	117 37.9	80 25.9	15 4.9	97 31.4

■令和3年度調査

▼犬山市は魅力あるまちだと思うか



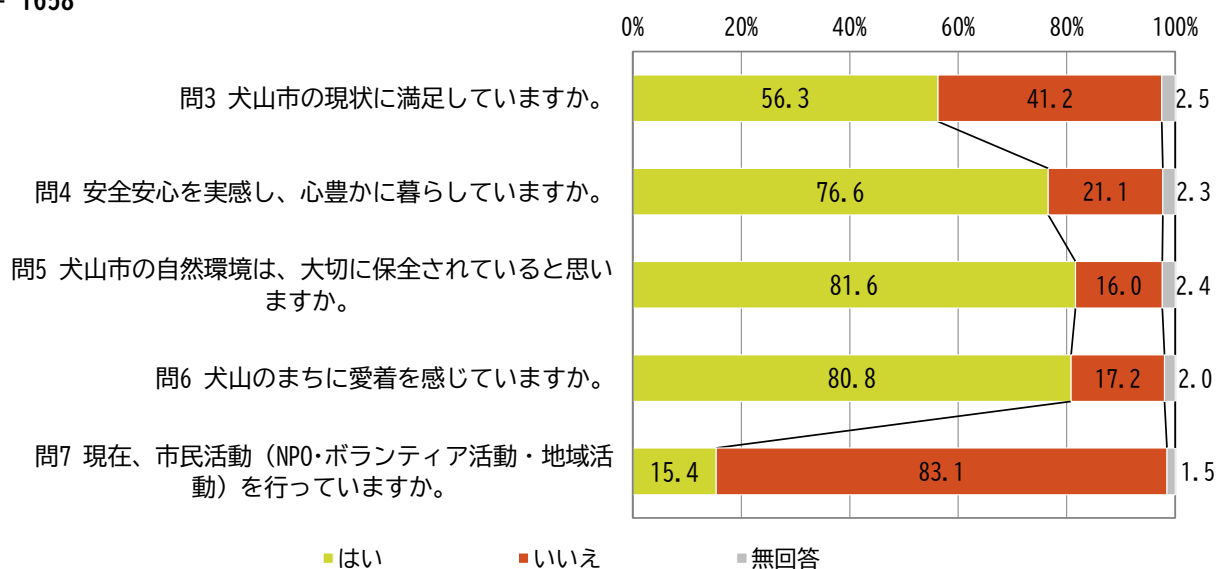
問3～問7 犬山市での暮らしについて、あなたの考えを教えてください。
(それぞれ1つに○)

問3「現状に満足しているか」は 56.3%で、一定の評価がみられる一方、「満足していない」も 41.2%と高く、問2「総合的なまちの魅力」に比べると満足度は伸びていないといえる。

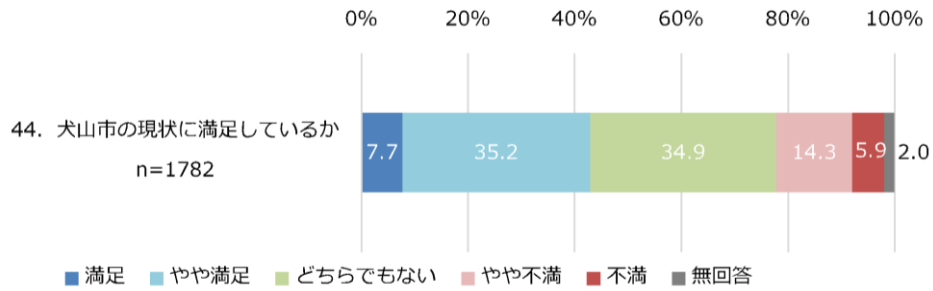
問4「安全安心を実感し、心豊かに暮らしているか」は 76.6%、問5「自然環境は、大切に保全されているか」は 81.6%、問6「まちへの愛着」は 80.8%と非常に高く、犬山市の基礎的な住みよさは自然環境・まちへの愛着・安全安心が評価されている。

一方、市民活動への参加は 15.4%にとどまっていることが課題である。

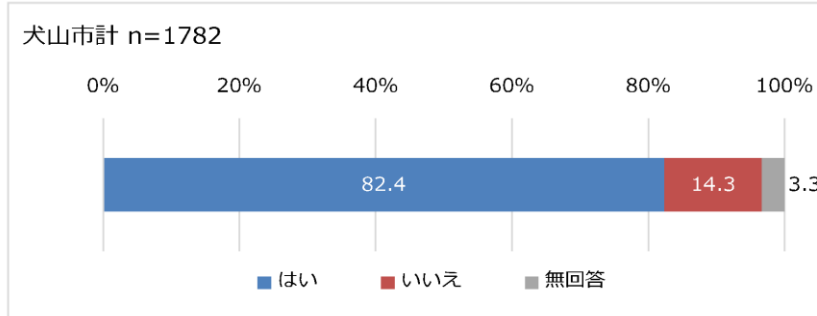
N = 1658



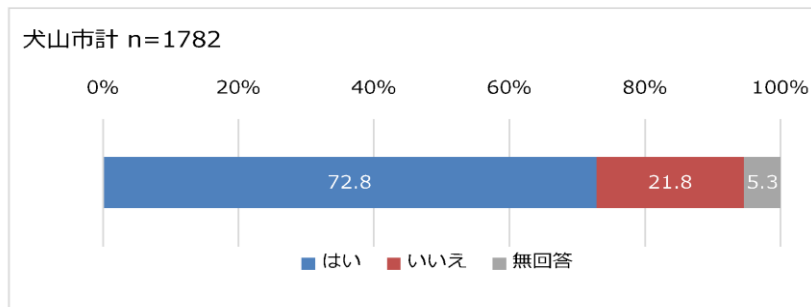
■令和3年度調査



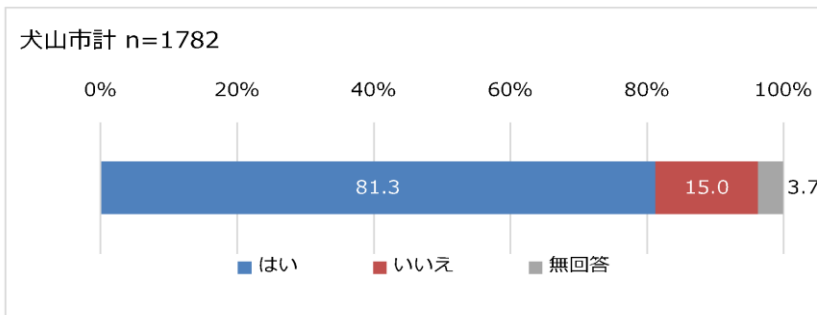
▼1. 安全安心を実感し、心豊かに暮らしているか



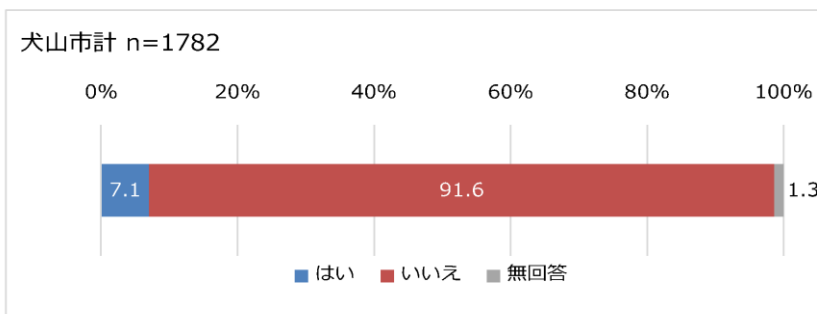
▼24. 自然環境は、大切に保全されていると思うか



▼3. まちに愛着を感じているか



▼15. 現在、市民活動を行っているか

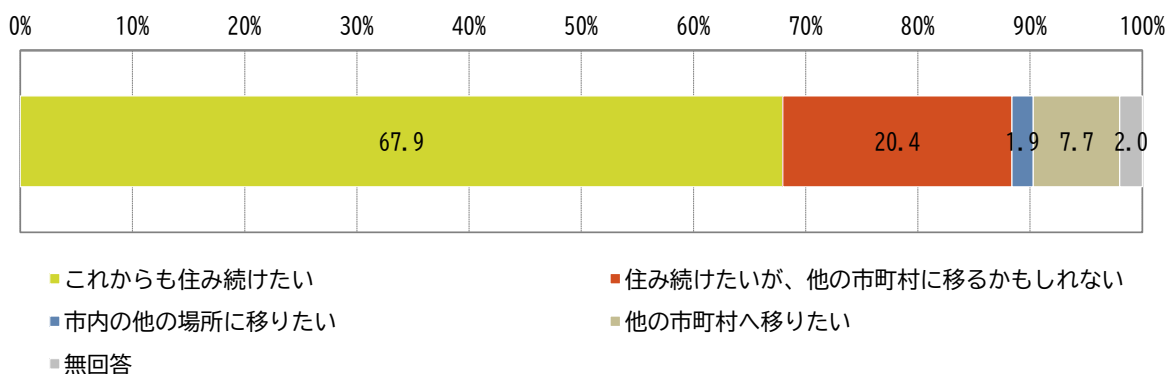


4) 犬山市の住みやすさについて

問8 これからも犬山市に住み続けたいと思いますか。（1つに○）

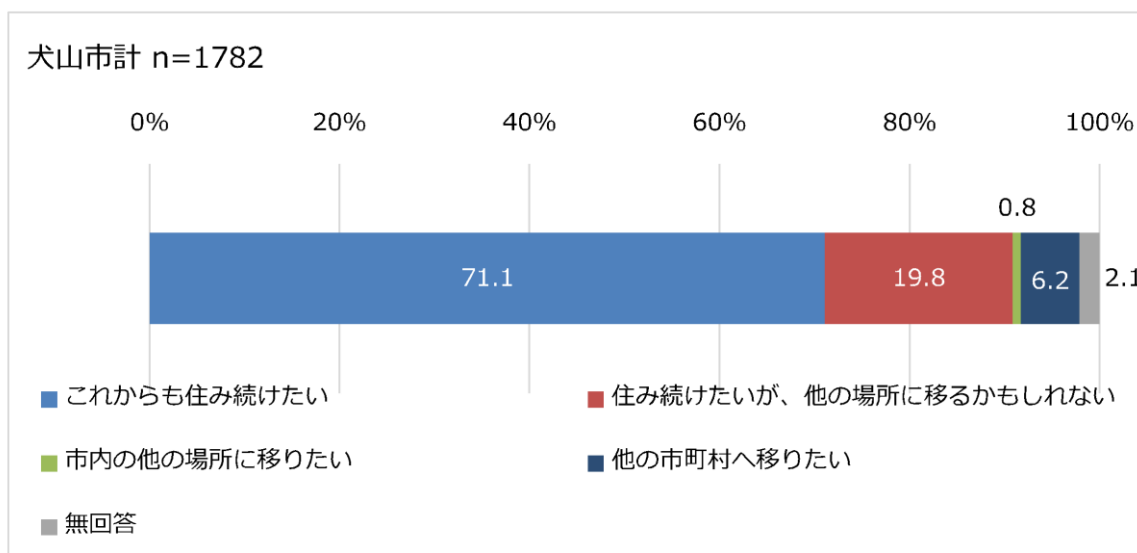
「これからも住み続けたい」は67.9%で、「市内の他の場所に移りたい」1.9%を合わせると、定住志向を持つ層が大半を占める。ただし、「住み続けたいが、他市町村に移るかもしれない」20.4%、「他の市町村に移りたい」7.7%と転出可能性を含む層も約3割程度存在するため、定住意向を安定させることが重要である。

N = 1658



令和3年度調査

▼これからも犬山市に住み続けたいか



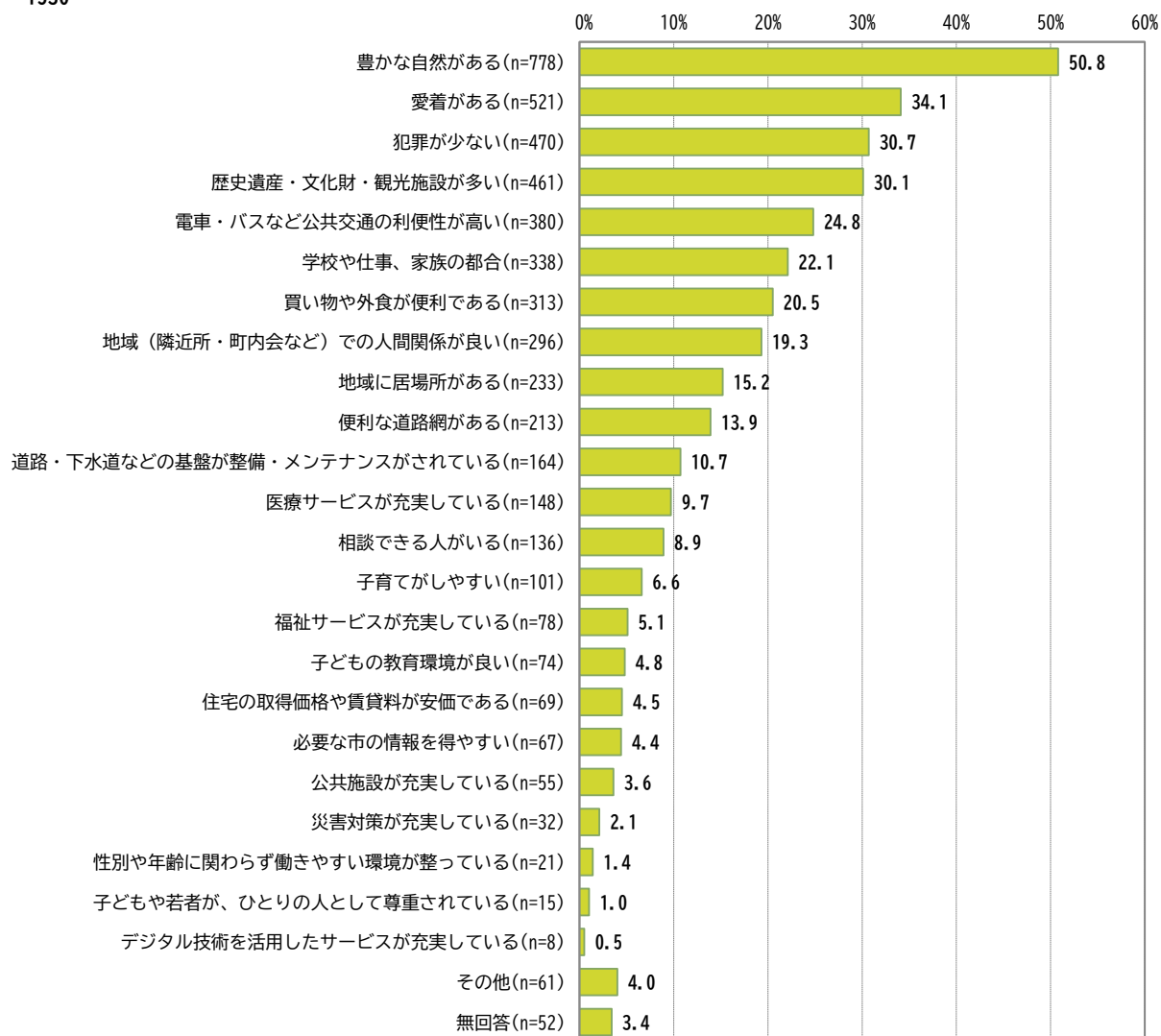
問8「1～3」の回答者

問9 住み続けたいと思う理由は何ですか。（5つまで○）

住み続けたい理由は「豊かな自然がある」が50.8%で最も高く、「愛着がある」34.1%、「犯罪が少ない」30.7%、「歴史遺産・文化財・観光施設が多い」30.1%が続く。

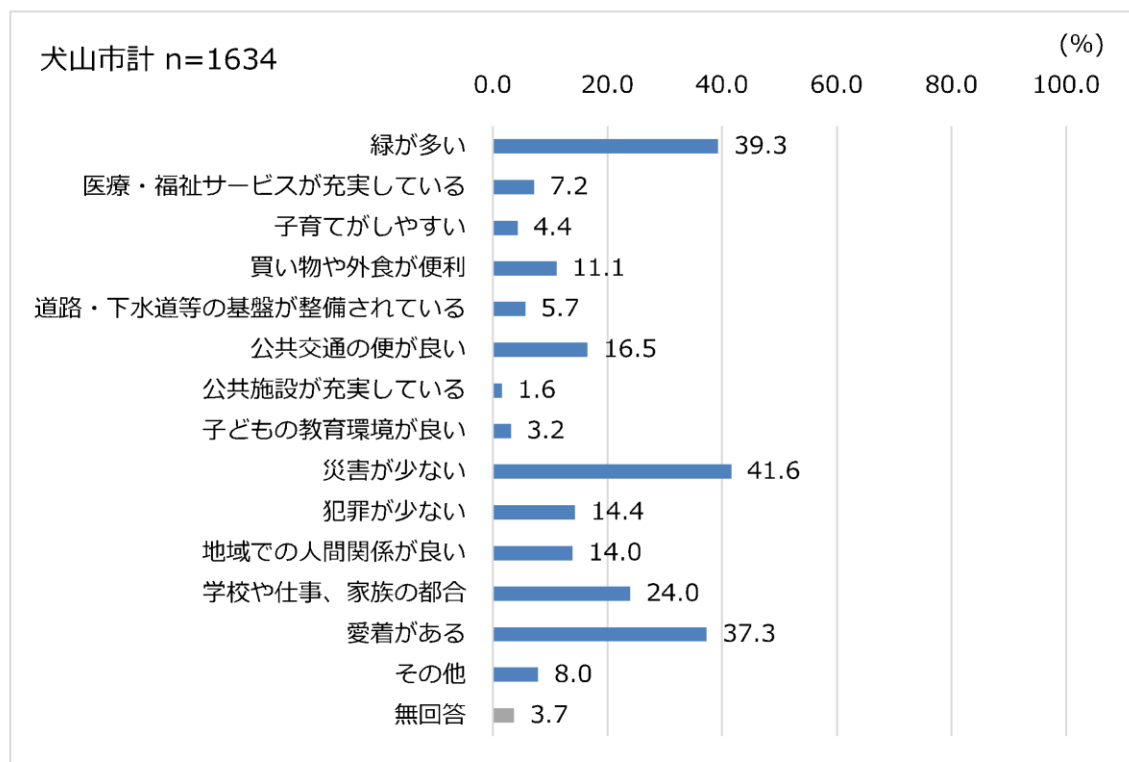
一方で、理由として低いのは「医療サービスの充実」、「子育てがしやすい」「福祉サービスの充実」「子どもの教育環境」「災害対策の充実」などが1割未満となっている。

N = 1530



■令和3年度調査

▼住み続けたいと思う理由



問8 これからも犬山市に住み続けたいと思いますか。

×問9 住み続けたいと思う理由は何ですか。

「これからも住み続けたい」層では、住み続けたい理由として「豊かな自然がある」55.6%、「愛着がある」38.5%、「犯罪が少ない」32.5%が高く、地域への愛着や安心感が定住意向を支えている。

一方、「住み続けたいが、他市町村に移るかもしれない」層では「学校や仕事、家族の都合」32.5%や「歴史遺産・文化財・観光施設が多い」34.4%が比較的高く、定住の理由が生活基盤や就業・家族事情に左右されやすい。

上段:度数 下段:%	合計	豊かな自然がある	医療サービスが充実している	福祉サービスが充実している	子育てがしやすい	買い物や外食が便利である	道路・下水道などの基盤が整備・メンテナンスがされている	電車・バスなど公共交通の利便性が高い
全体	1467 100.0	771 52.6	146 10.0	78 5.3	101 6.9	311 21.2	161 11.0	376 25.6
これからも住み続けたい	1114 100.0	619 55.6	127 11.4	67 6.0	91 8.2	246 22.1	137 12.3	288 25.9
住み続けたいが、 他市町村に移る かもしれない	326 100.0	138 42.3	16 4.9	10 3.1	10 3.1	62 19.0	23 7.1	85 26.1
市内の他の場所に 移りたい	27 100.0	14 51.9	3 11.1	1 3.7	- -	3 11.1	1 3.7	3 11.1

上段:度数 下段:%	便利な道路網がある	公共施設が充実している	子どもの教育環境が良い	災害対策が充実している	犯罪が少ない	地域（隣近所・町内会など）での人間関係が良い	地域に居場所がある	相談できる人がいる
全体	213 14.5	55 3.7	74 5.0	30 2.0	467 31.8	295 20.1	231 15.7	134 9.1
これからも住み続けたい	158 14.2	40 3.6	61 5.5	21 1.9	362 32.5	257 23.1	192 17.2	108 9.7
住み続けたいが、 他市町村に移る かもしれない	51 15.6	14 4.3	12 3.7	9 2.8	94 28.8	36 11.0	36 11.0	24 7.4
市内の他の場所に 移りたい	4 14.8	1 3.7	1 3.7	- -	11 40.7	2 7.4	3 11.1	2 7.4

上段:度数 下段:%	学校や仕事、家族の都合	愛着がある	住宅の取得価格や賃貸料が安価である	歴史遺産・文化財・観光施設が多い	性別や年齢に関わらず働きやすい環境が整っている	子どもや若者が、ひとりの人として尊重されている	デジタル技術を活用したサービスが充実している	必要な市の情報を得やすい	その他
全体	337 23.0	519 35.4	69 4.7	459 31.3	21 1.4	14 1.0	8 0.5	65 4.4	61 4.2
これからも住み続けたい	224 20.1	429 38.5	38 3.4	340 30.5	20 1.8	10 0.9	7 0.6	52 4.7	45 4.0
住み続けたいが、 他市町村に移る かもしれない	106 32.5	86 26.4	30 9.2	112 34.4	- -	3 0.9	1 0.3	12 3.7	14 4.3
市内の他の場所に 移りたい	7 25.9	4 14.8	1 3.7	7 25.9	1 3.7	1 3.7	- -	1 3.7	2 7.4

性別×問9 住み続けたいと思う理由は何ですか。

性別でみると、男性は「豊かな自然がある」54.0%、「犯罪が少ない」34.3%、「愛着がある」36.3%が女性よりやや高く、自然・安全・愛着を重視する傾向がみられる。

女性は「地域の人間関係が良い」23.8%、「相談できる人がいる」11.1%、「学校や仕事、家族の都合」25.1%が男性より高く、地域での人間関係や日常生活の支えが定住の理由となっている。

上段:度数 下段:%	合計	豊かな自然がある	医療サービスが充実している	福祉サービスが充実している	子育てがしやすい	買い物や外食が便利である	道路・下水道などの基盤が整備・メンテナンスがされている	電車・バスなど公共交通の利便性が高い
全体	1396 100.0	723 51.8	135 9.7	71 5.1	96 6.9	293 21.0	148 10.6	361 25.9
男性	642 100.0	347 54.0	67 10.4	29 4.5	39 6.1	129 20.1	87 13.6	169 26.3
女性	741 100.0	368 49.7	68 9.2	42 5.7	56 7.6	162 21.9	61 8.2	189 25.5
その他	2 100.0	2 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -
回答しない	11 100.0	6 54.5	- -	- -	1 9.1	2 18.2	- -	3 27.3

上段:度数 下段:%	便利な道路網がある	公共施設が充実している	子どもの教育環境が良い	災害対策が充実している	犯罪が少ない	地域（隣近所・町内会など）での人間関係が良い	地域に居場所がある	相談できる人がいる
全体	202 14.5	51 3.7	70 5.0	30 2.1	442 31.7	280 20.1	221 15.8	123 8.8
男性	116 18.1	29 4.5	33 5.1	11 1.7	220 34.3	104 16.2	89 13.9	39 6.1
女性	86 11.6	22 3.0	37 5.0	18 2.4	217 29.3	176 23.8	130 17.5	82 11.1
その他	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 50.0	1 50.0
回答しない	- -	- -	- -	1 9.1	5 45.5	- -	1 9.1	1 9.1

上段:度数 下段:%	学校や仕事、家族の都合	愛着がある	住宅の取得価格や賃貸料が安価である	歴史遺産・文化財・観光施設が多い	性別や年齢に関わらず働きやすい環境が整っている	子どもや若者が、ひとりの人として尊重されている	デジタル技術を活用したサービスが充実している	必要な市の情報を得やすい	その他
全体	331 23.7	487 34.9	64 4.6	436 31.2	20 1.4	12 0.9	7 0.5	61 4.4	57 4.1
男性	140 21.8	233 36.3	29 4.5	204 31.8	13 2.0	6 0.9	2 0.3	19 3.0	30 4.7
女性	186 25.1	252 34.0	35 4.7	227 30.6	7 0.9	6 0.8	5 0.7	41 5.5	27 3.6
その他	- -	1 50.0	- -	1 50.0	- -	- -	- -	- -	- -
回答しない	5 45.5	1 9.1	- -	4 36.4	- -	- -	- -	1 9.1	- -

年齢×問9 住み続けたいと思う理由は何ですか。

年齢別では、若年層は「学校や仕事、家族の都合」や「公共交通の利便性」を理由に挙げる割合が高く、生活行動や就業・通学環境が定住判断に影響している。

高齢層では「豊かな自然がある」「犯罪が少ない」「地域の人間関係が良い」「地域に居場所がある」など、自然環境・安心・地域のつながりを重視する傾向が強まる。

上段:度数 下段:%	合計	豊かな自然がある	医療サービスが充実している	福祉サービスが充実している	子育てがしやすい	買い物や外食が便利である	道路・下水道などの基盤が整備・メンテナンスがされている	電車・バスなど公共交通の利便性が高い
全体	1460 100.0	767 52.5	145 9.9	78 5.3	100 6.8	308 21.1	161 11.0	376 25.8
18歳、19歳	21 100.0	13 61.9	3 14.3	4 19.0	1 4.8	2 9.5	2 9.5	4 19.0
20歳～24歳	47 100.0	25 53.2	4 8.5	2 4.3	1 2.1	8 17.0	3 6.4	11 23.4
25歳～29歳	53 100.0	12 22.6	2 3.8	- -	3 5.7	19 35.8	2 3.8	23 43.4
30歳～34歳	71 100.0	26 36.6	3 4.2	3 4.2	8 11.3	11 15.5	4 5.6	23 32.4
35歳～39歳	78 100.0	25 32.1	6 7.7	5 6.4	23 29.5	17 21.8	11 14.1	21 26.9
40歳～44歳	91 100.0	37 40.7	7 7.7	2 2.2	14 15.4	18 19.8	6 6.6	23 25.3
45歳～49歳	118 100.0	53 44.9	9 7.6	3 2.5	25 21.2	15 12.7	8 6.8	32 27.1
50歳～54歳	135 100.0	62 45.9	11 8.1	6 4.4	12 8.9	31 23.0	11 8.1	34 25.2
55歳～59歳	119 100.0	54 45.4	8 6.7	2 1.7	1 0.8	23 19.3	8 6.7	28 23.5
60歳～64歳	136 100.0	86 63.2	3 2.2	3 2.2	1 0.7	28 20.6	14 10.3	29 21.3
65歳～69歳	100 100.0	51 51.0	7 7.0	5 5.0	6 6.0	24 24.0	8 8.0	26 26.0
70歳～74歳	121 100.0	78 64.5	11 9.1	8 6.6	2 1.7	29 24.0	12 9.9	34 28.1
75歳～79歳	166 100.0	106 63.9	26 15.7	10 6.0	- -	37 22.3	27 16.3	42 25.3
80歳以上	204 100.0	139 68.1	45 22.1	25 12.3	3 1.5	46 22.5	45 22.1	46 22.5

上段:度数 下段:%	便利な道路網がある	公共施設が充実している	子どもの教育環境が良い	災害対策が充実している	犯罪が少ない	地域（隣近所・町内会など）での人間関係が良い	地域に居場所がある	相談できる人がいる
全体	211 14.5	55 3.8	74 5.1	32 2.2	465 31.8	292 20.0	232 15.9	135 9.2
18歳、19歳	3 14.3	- -	- -	1 4.8	6 28.6	2 9.5	6 28.6	1 4.8
20歳～24歳	9 19.1	2 4.3	- -	- -	9 19.1	8 17.0	10 21.3	6 12.8
25歳～29歳	8 15.1	3 5.7	- -	1 1.9	4 7.5	3 5.7	4 7.5	6 11.3
30歳～34歳	10 14.1	4 5.6	8 11.3	4 5.6	10 14.1	9 12.7	9 12.7	6 8.5
35歳～39歳	11 14.1	3 3.8	10 12.8	2 2.6	18 23.1	17 21.8	6 7.7	7 9.0
40歳～44歳	10 11.0	3 3.3	7 7.7	2 2.2	26 28.6	16 17.6	10 11.0	6 6.6
45歳～49歳	18 15.3	1 0.8	13 11.0	3 2.5	30 25.4	12 10.2	9 7.6	4 3.4
50歳～54歳	14 10.4	5 3.7	7 5.2	5 3.7	46 34.1	19 14.1	16 11.9	13 9.6
55歳～59歳	18 15.1	3 2.5	5 4.2	3 2.5	36 30.3	25 21.0	15 12.6	11 9.2
60歳～64歳	25 18.4	5 3.7	5 3.7	1 0.7	48 35.3	24 17.6	25 18.4	10 7.4
65歳～69歳	14 14.0	3 3.0	6 6.0	3 3.0	28 28.0	29 29.0	11 11.0	5 5.0
70歳～74歳	18 14.9	4 3.3	5 4.1	1 0.8	42 34.7	25 20.7	24 19.8	12 9.9
75歳～79歳	28 16.9	5 3.0	3 1.8	3 1.8	71 42.8	41 24.7	43 25.9	16 9.6
80歳以上	25 12.3	14 6.9	5 2.5	3 1.5	91 44.6	62 30.4	44 21.6	32 15.7

上段:度数 下段:%	学校や仕事、家族 の都合	愛着がある	住宅の取得価格や 賃貸料が安価であ る	歴史遺産・文化 財・観光施設が多 い	性別や年齢に関わ らず働きやすい環 境が整っている	子どもや若者が、 ひとりの人として 尊重されている	デジタル技術を活 用したサービスが 充実している	必要な市の情報を 得やすい	その他
全体	334 22.9	517 35.4	69 4.7	456 31.2	21 1.4	15 1.0	8 0.5	67 4.6	60 4.1
18歳、19歳	2 9.5	9 42.9	1 4.8	4 19.0	1 4.8	2 9.5	-	1 4.8	-
20歳～24歳	15 31.9	24 51.1	3 6.4	16 34.0	2 4.3	-	-	-	1 2.1
25歳～29歳	24 45.3	13 24.5	8 15.1	15 28.3	2 3.8	1 1.9	-	2 3.8	1 1.9
30歳～34歳	26 36.6	29 40.8	4 5.6	17 23.9	-	3 4.2	1 1.4	4 5.6	-
35歳～39歳	29 37.2	21 26.9	6 7.7	24 30.8	-	-	1 1.3	2 2.6	2 2.6
40歳～44歳	40 44.0	27 29.7	6 6.6	23 25.3	-	2 2.2	-	1 1.1	3 3.3
45歳～49歳	52 44.1	34 28.8	10 8.5	29 24.6	1 0.8	1 0.8	-	2 1.7	6 5.1
50歳～54歳	40 29.6	41 30.4	7 5.2	51 37.8	1 0.7	-	1 0.7	4 3.0	9 6.7
55歳～59歳	33 27.7	48 40.3	2 1.7	35 29.4	1 0.8	1 0.8	1 0.8	3 2.5	6 5.0
60歳～64歳	22 16.2	54 39.7	6 4.4	43 31.6	2 1.5	-	2 1.5	7 5.1	5 3.7
65歳～69歳	14 14.0	33 33.0	2 2.0	34 34.0	2 2.0	1 1.0	-	3 3.0	5 5.0
70歳～74歳	16 13.2	45 37.2	3 2.5	46 38.0	1 0.8	-	1 0.8	9 7.4	4 3.3
75歳～79歳	12 7.2	71 42.8	5 3.0	60 36.1	4 2.4	2 1.2	1 0.6	13 7.8	6 3.6
80歳以上	9 4.4	68 33.3	6 2.9	59 28.9	4 2.0	2 1.0	-	16 7.8	12 5.9

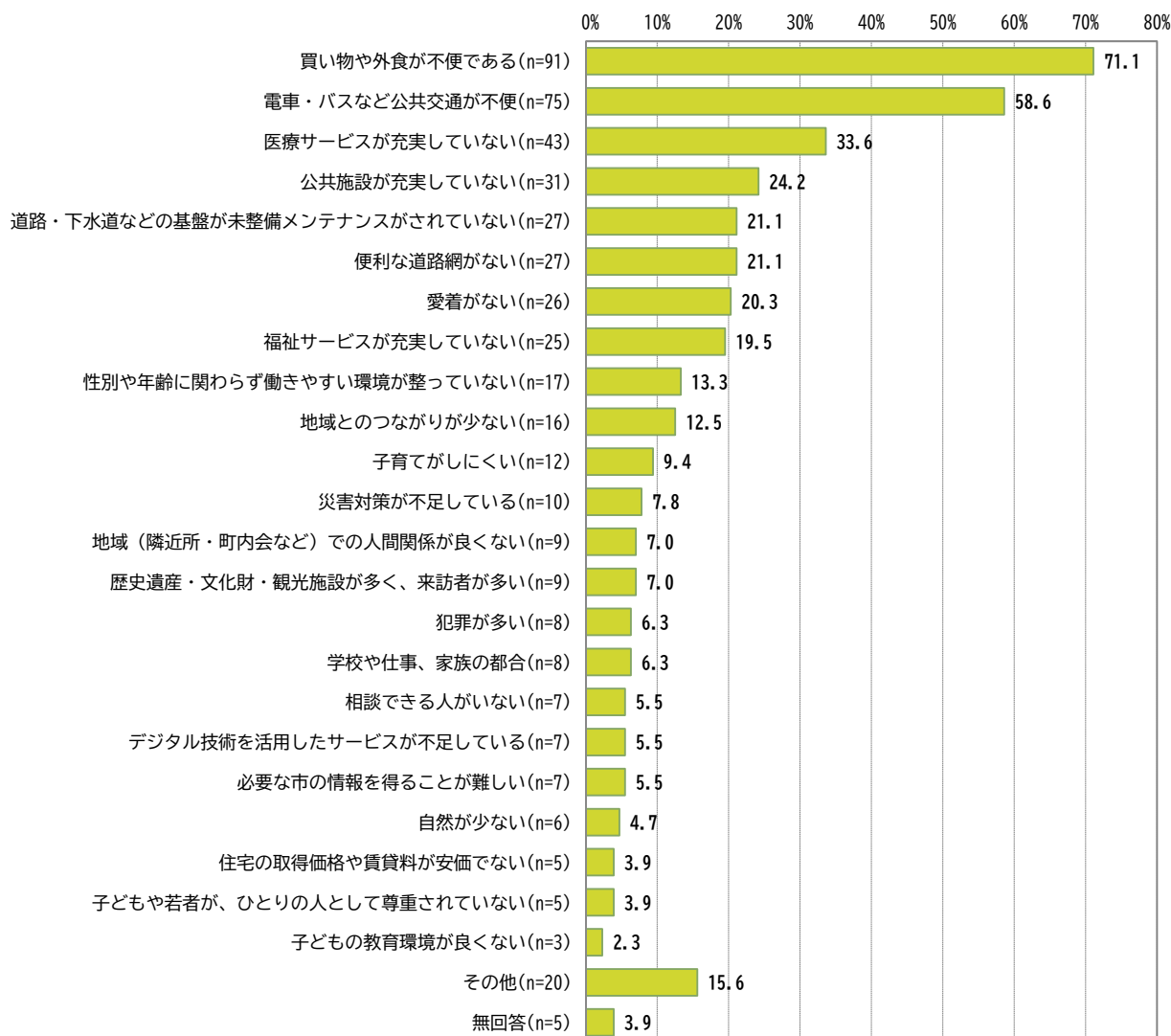
問8「4」の回答者

問10 住み続けたくないと思う理由は何ですか。（5つまで○）

住み続けたくない理由では、「買い物や外食が不便である」が71.1%、「公共交通が不便」が58.6%と突出しており、転出意向の主な要因は生活利便性と移動利便性に集中している。次いで、「医療サービスが充実していない」33.6%、「公共施設が充実していない」24.2%、「道路・下水道などの基盤が未整備メンテナンスがされていない」21.1%とインフラに関する事項が多くなっている。

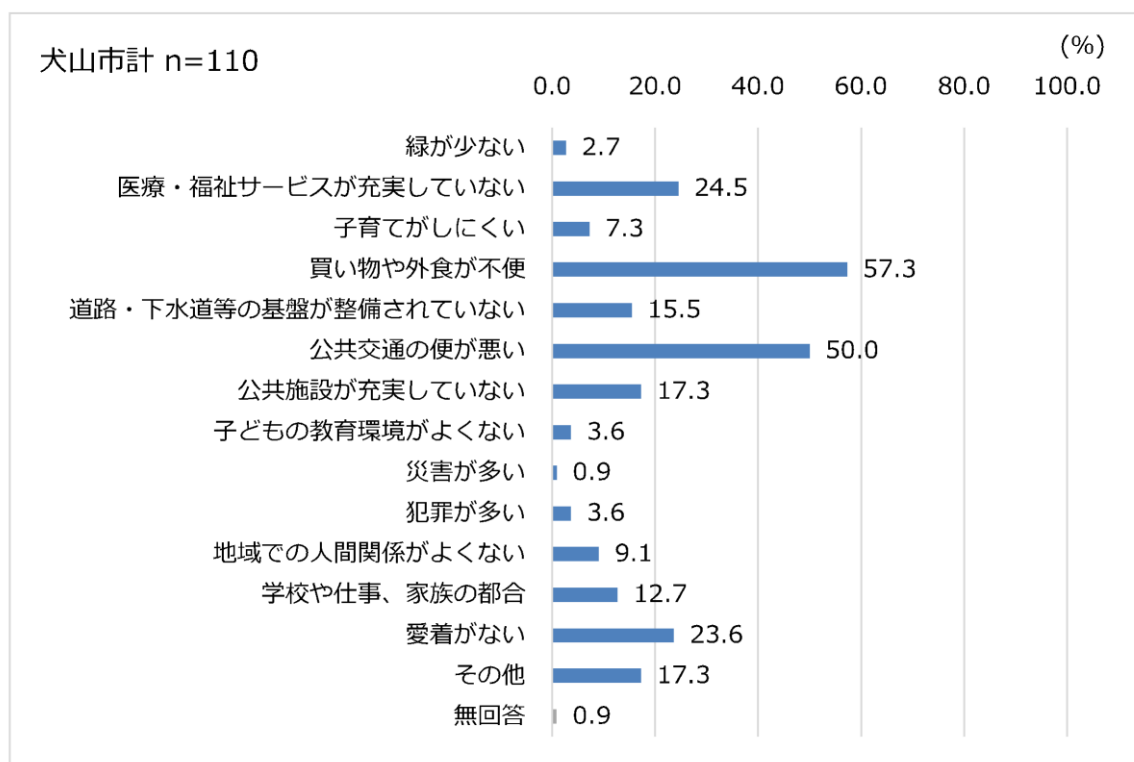
生活圏の中で必要なサービスがいかに受けられるかが定住判断に影響しているといえる。

N = 128



■令和3年度調査

▼住み続けたいと思わない理由



5) 犬山市のまちの印象について

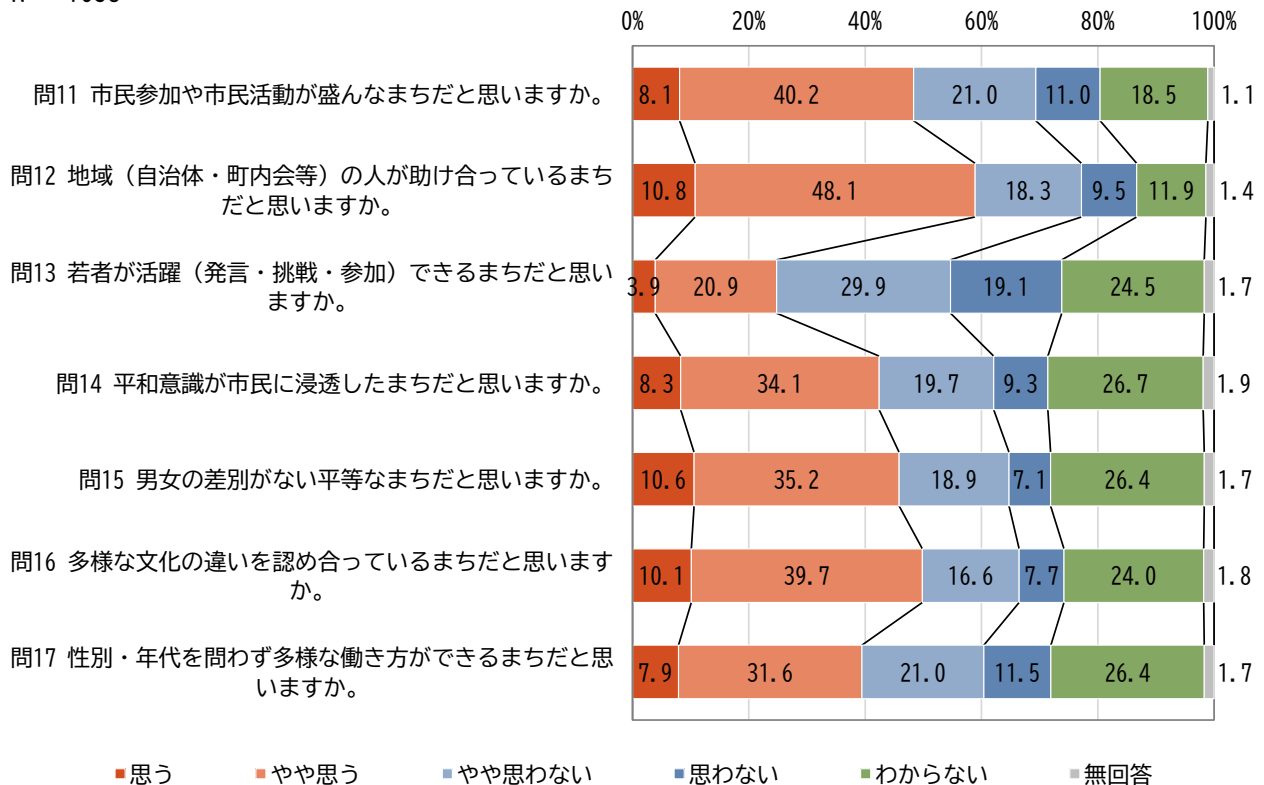
犬山市のまちの印象について、あなたの考えを教えてください。（それぞれ1つに○）

問11～問17 市民について

「市民参加や市民活動が盛んなまち」と「思う・やや思う」は 48.3%、「地域の人助け合っているまち」は 58.9%と、地域コミュニティについては半数以上の評価がある。

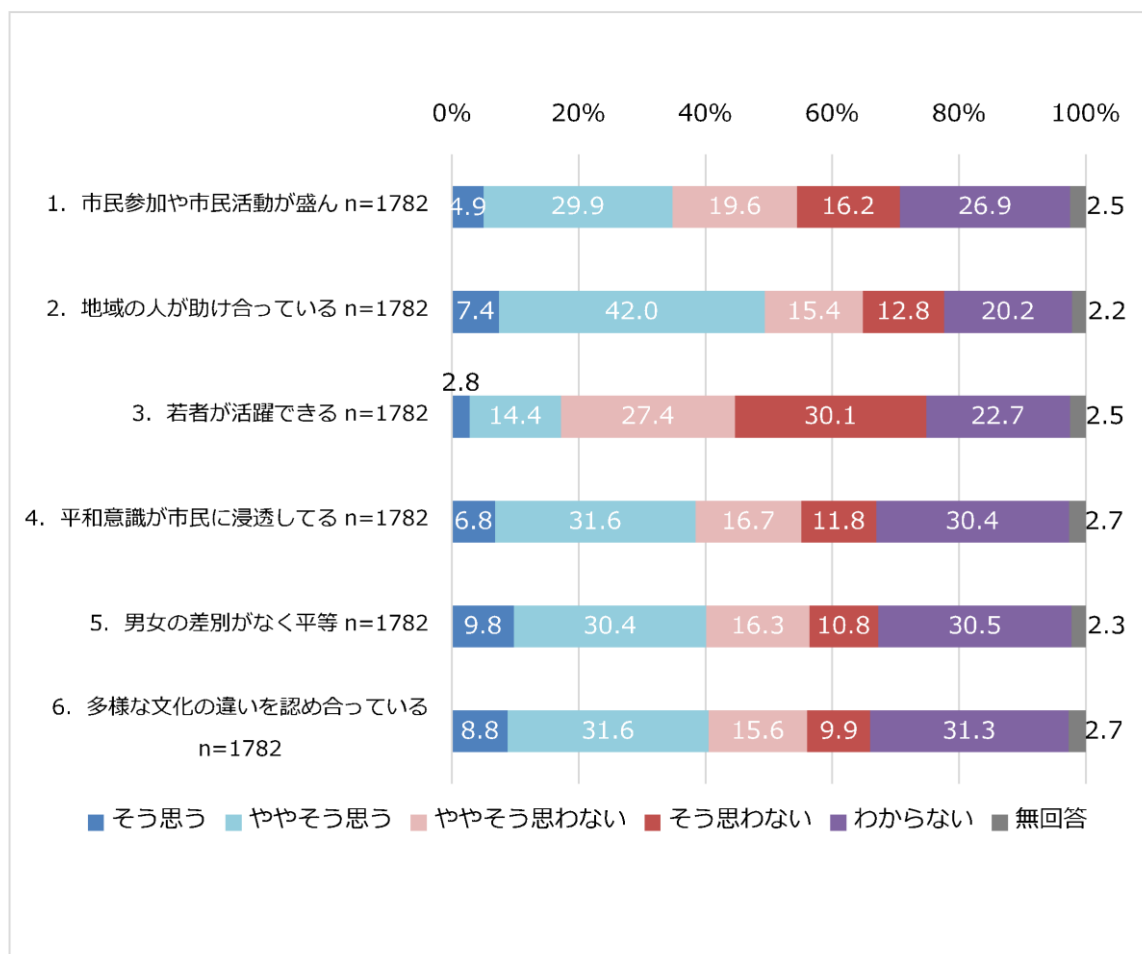
一方、「若者が活躍できるまち」については「思う・やや思う」が 24.8%にとどまり、「わからない」も 24.5%と高い。

N = 1658



■令和3年度調査

▼市民について

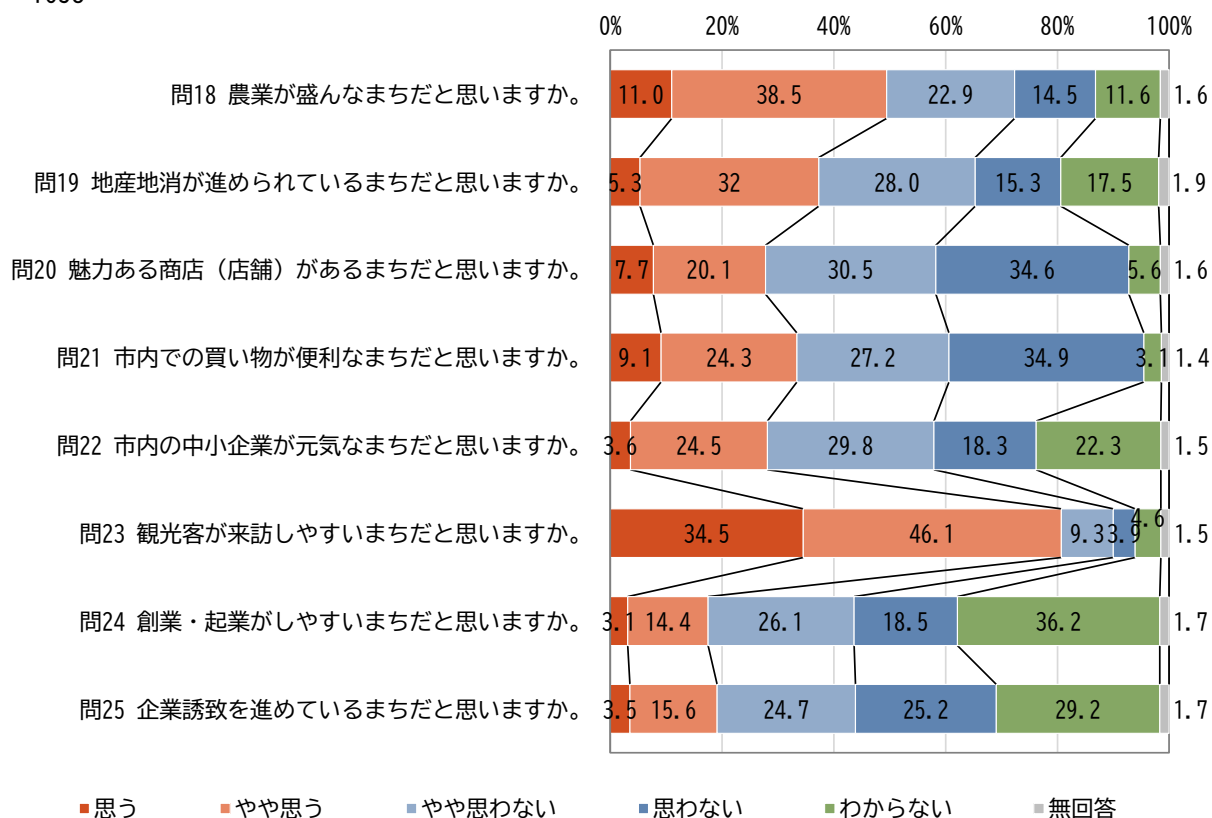


問 18～問 25 産業について

産業分野では、「観光客が来訪しやすいまち」と「思う・やや思う」が 80.6%と非常に高く、観光地としての認知・受入環境は強みといえる。

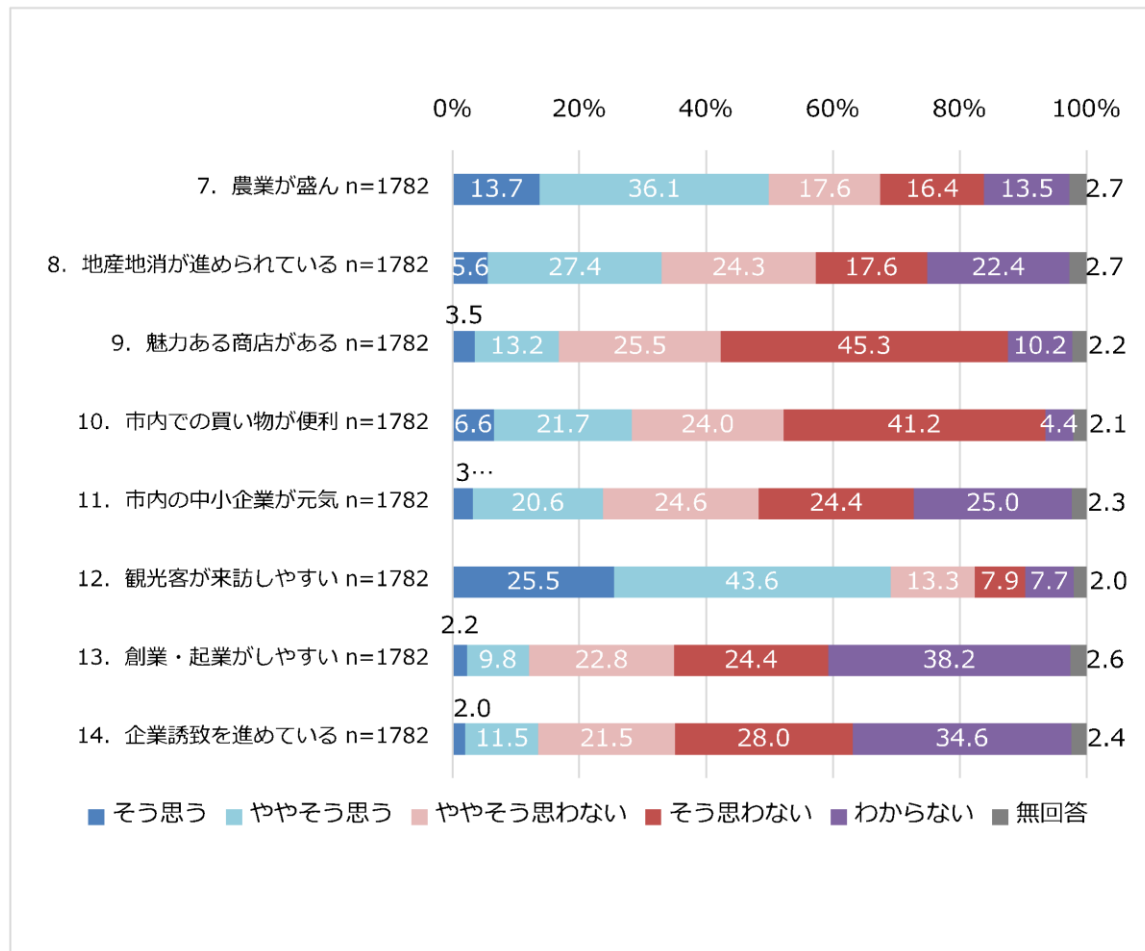
一方で、「魅力ある商店があるまち」は 27.8%、「市内での買い物が便利なまち」は 33.4%にとどまり、日常的な商業利便性が低いと評価されている。

N = 1658



■令和3年度調査

▼産業について



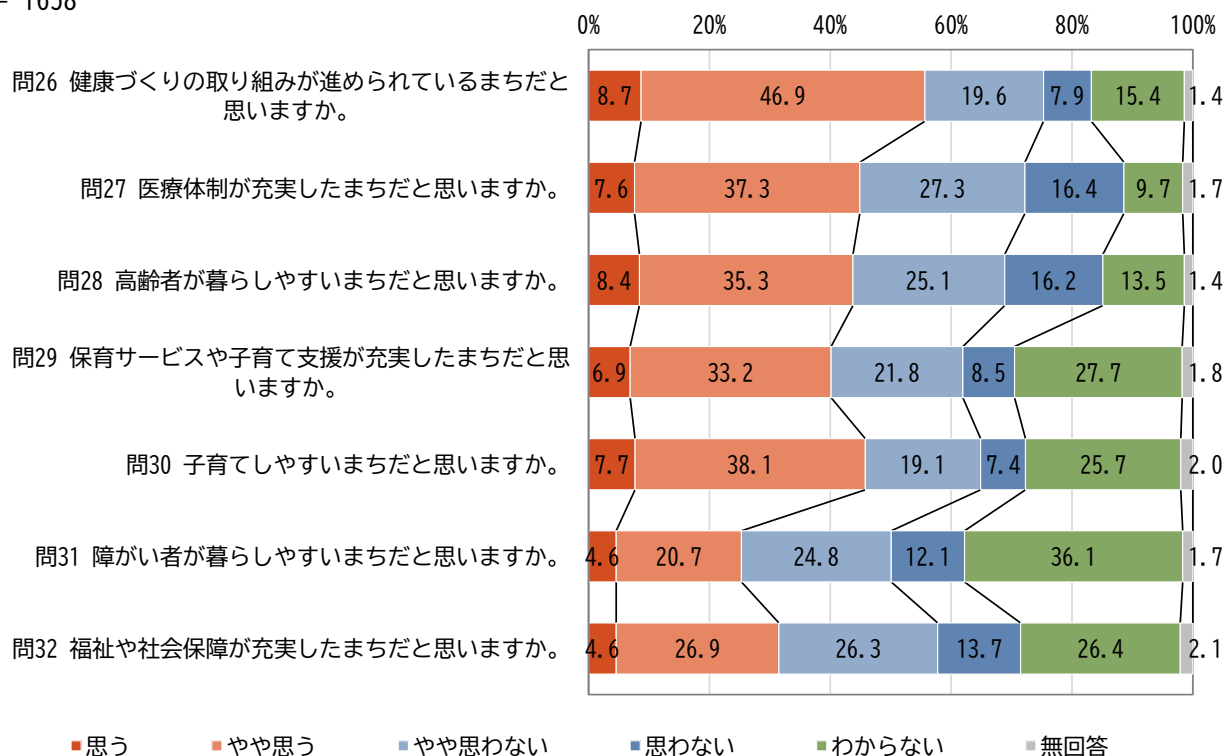
問 26～問 32 健康・福祉について

健康・福祉分野では、「健康づくりの取り組みが進められているまち」と「思う・やや思う」が55.6%と比較的高い。

一方、「医療体制が充実したまち」は44.9%、「高齢者が暮らしやすいまち」は43.7%、「福祉や社会保障が充実したまち」は31.5%にとどまり、医療・福祉サービスの充実には改善余地がある。

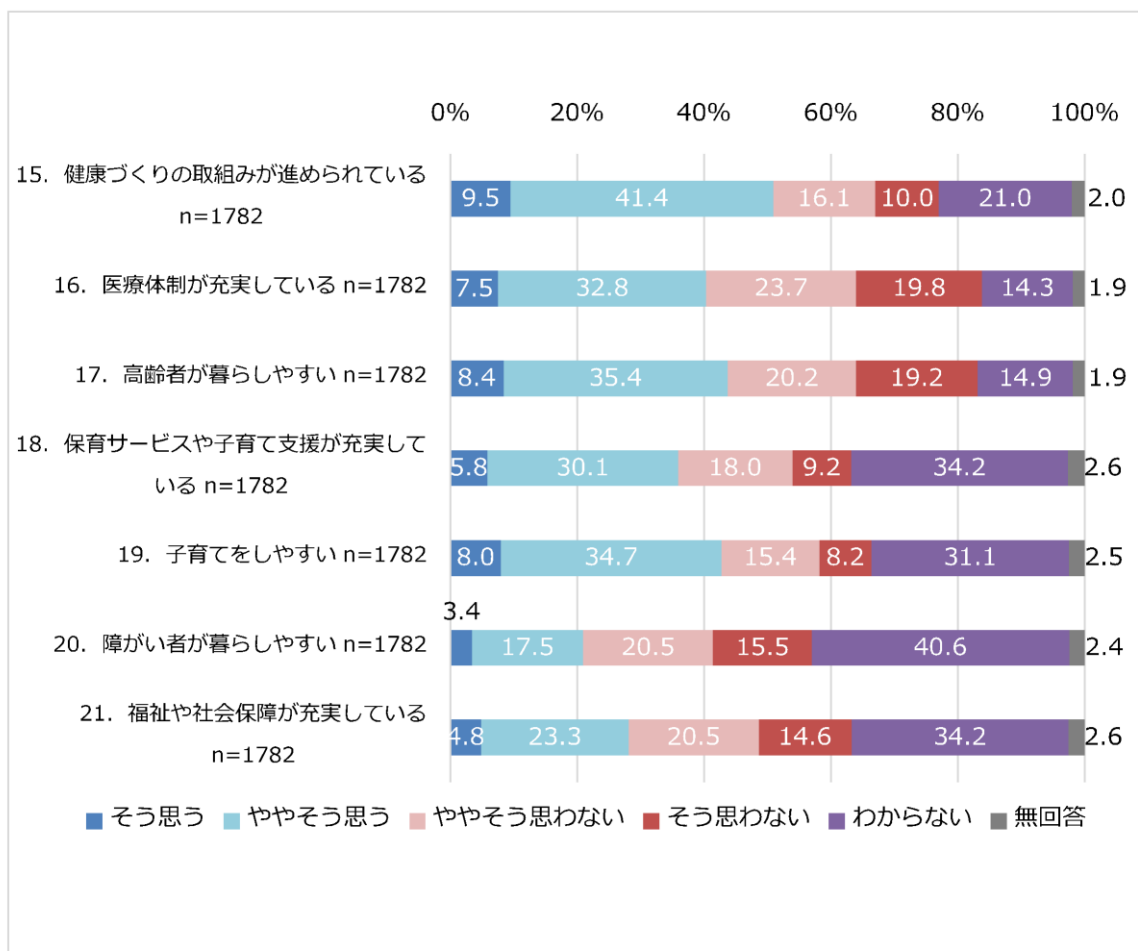
特に「障がい者が暮らしやすいまち」については「思わない・やや思わない」が36.9%で、「わからない」も36.1%と高く、支援制度や取組の周知、当事者視点を踏まえた環境整備が求められる。

N = 1658



■令和3年度調査

▼健康・福祉について

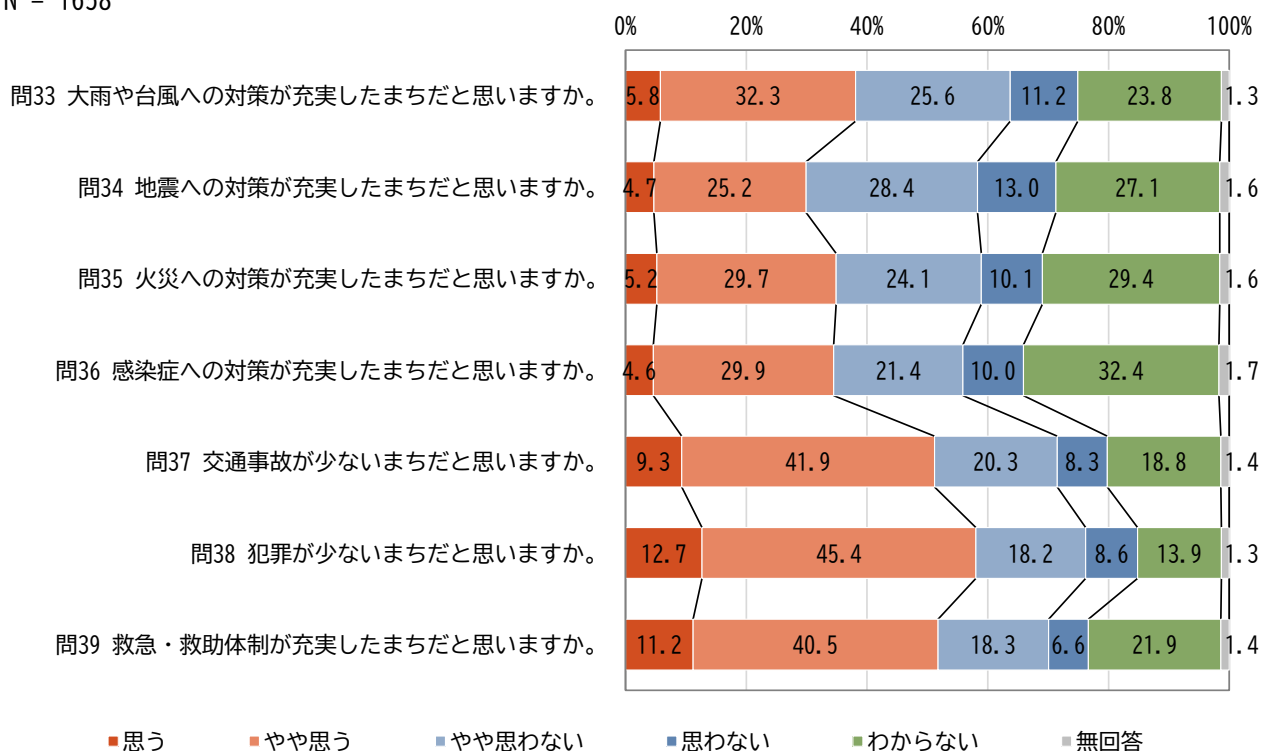


問 33～問 39 安全・安心について

安全・安心分野では、「犯罪が少ないまち」と「思う・やや思う」が 58.1%、「救急・救助体制が充実したまち」は 51.7%、「交通事故が少ないまち」は 51.2%と、治安や救急体制への評価は比較的高い。

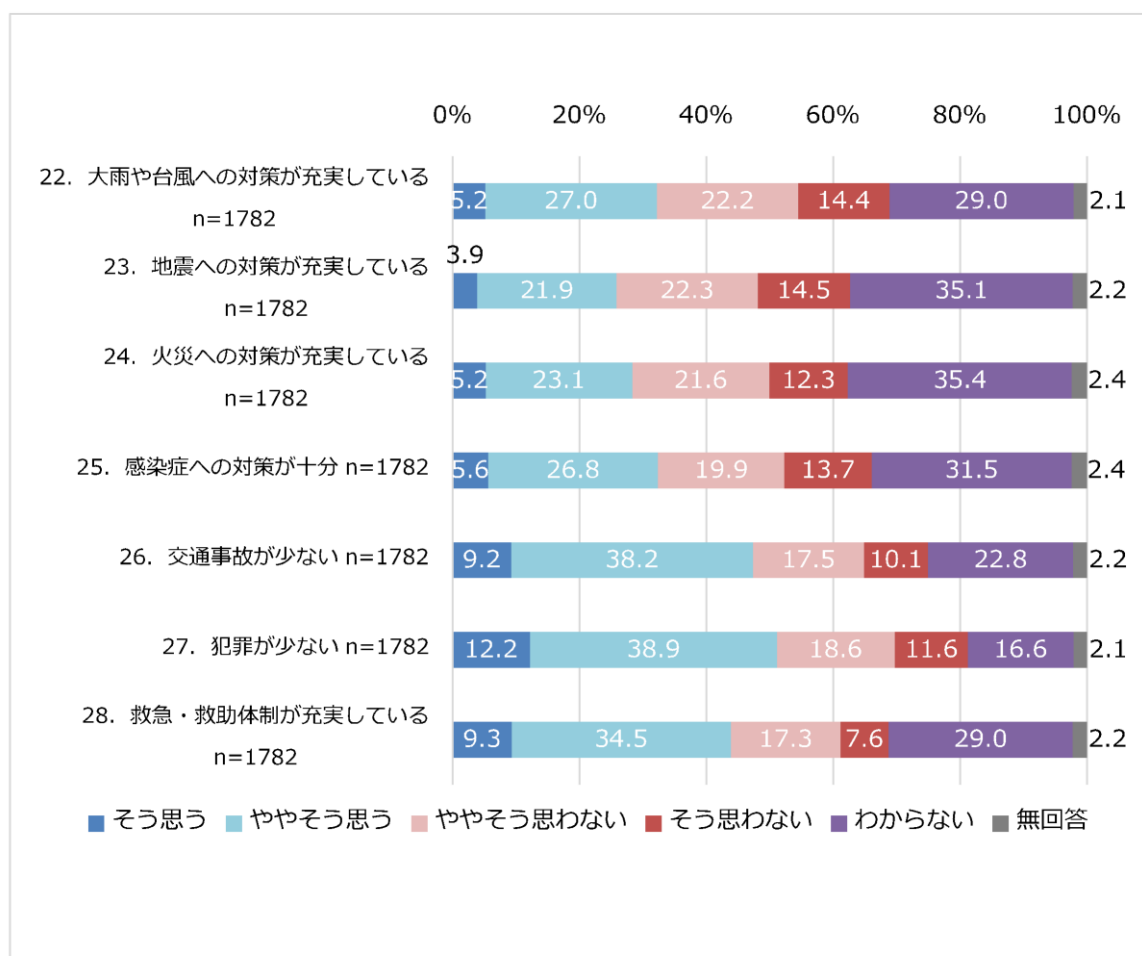
一方で、大雨・台風、地震、火災、感染症などへの対策が充実したまちでは「思う・やや思う」が 3～4 割程度にとどまり、「わからない」も多い。

N = 1658



■令和3年度調査

▼安全・安心について

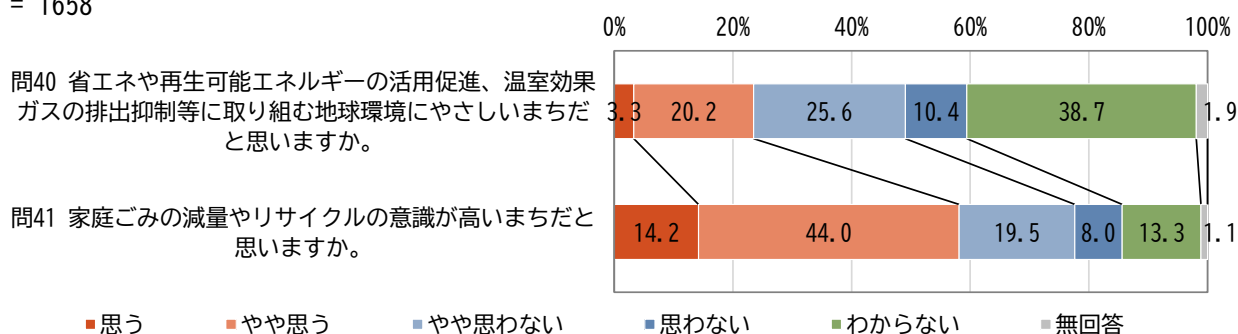


問 40～問 41 環境と調和したまちづくりについて

環境分野では、「家庭ごみの減量やリサイクル意識が高いまち」と「思う・やや思う」が 58.2%で、市民の日常的な環境行動には一定の評価がある。

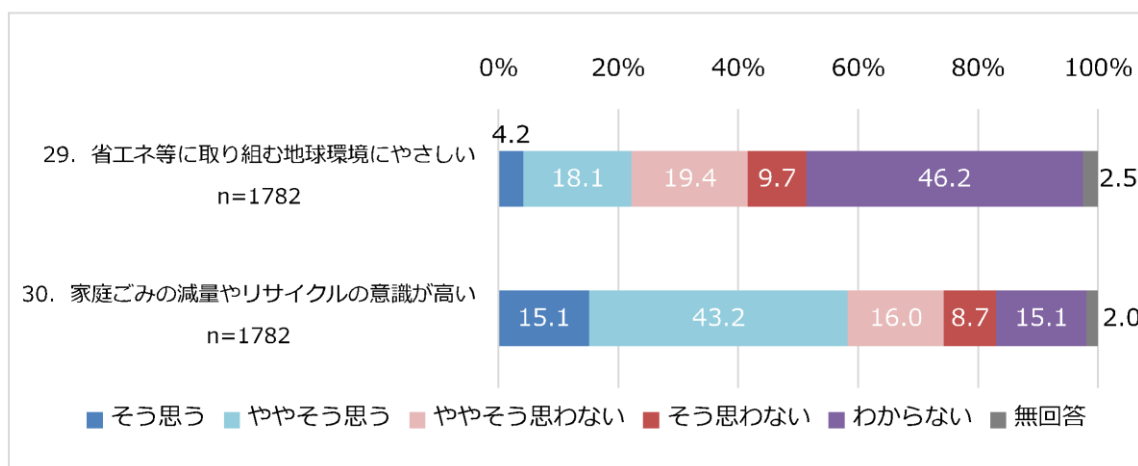
一方、「省エネや再生可能エネルギーの活用促進、温室効果ガスの排出抑制等に取り組む地球環境にやさしいまち」は 23.5%にとどまり、「わからない」が 38.7%と高い。

N = 1658



令和3年度調査

▼環境と調和したまちづくりについて

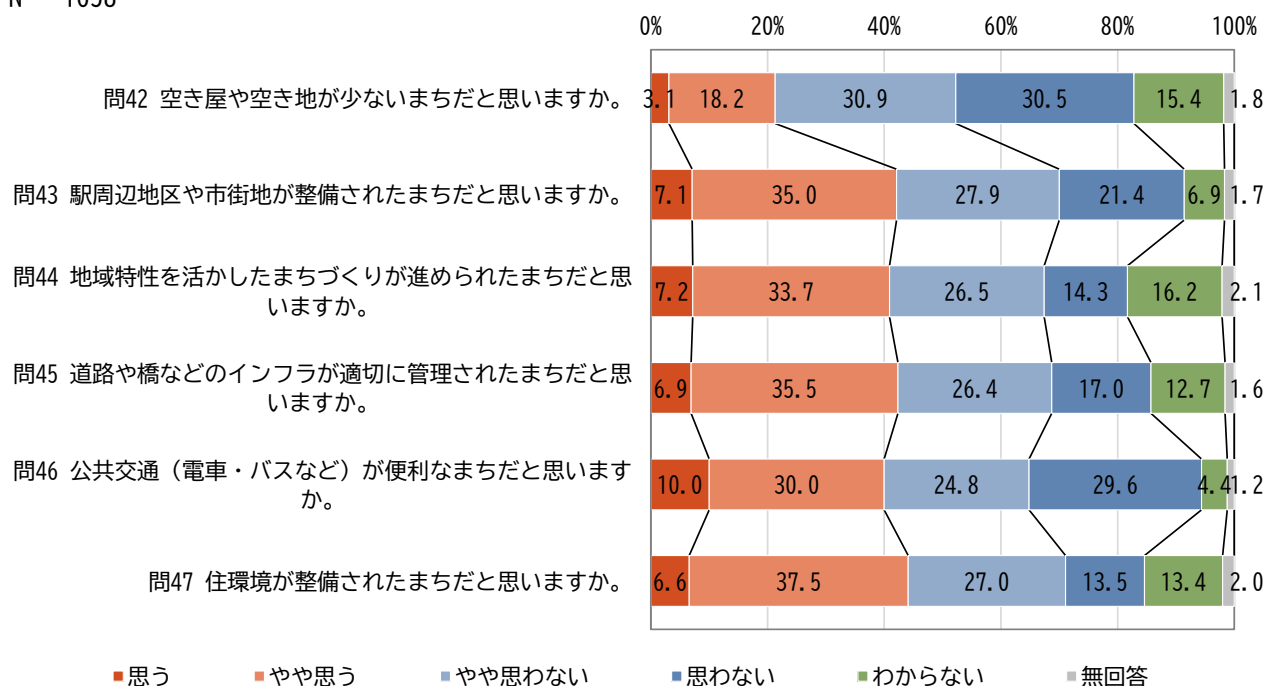


問 42～問 47 快適な暮らしを支える都市基盤づくりについて

都市基盤分野では、「住環境が整備されたまち」や「駅周辺地区や市街地が整備されたまち」、「インフラが適切に管理されたまち」は「思う・やや思う」が4割前後である。

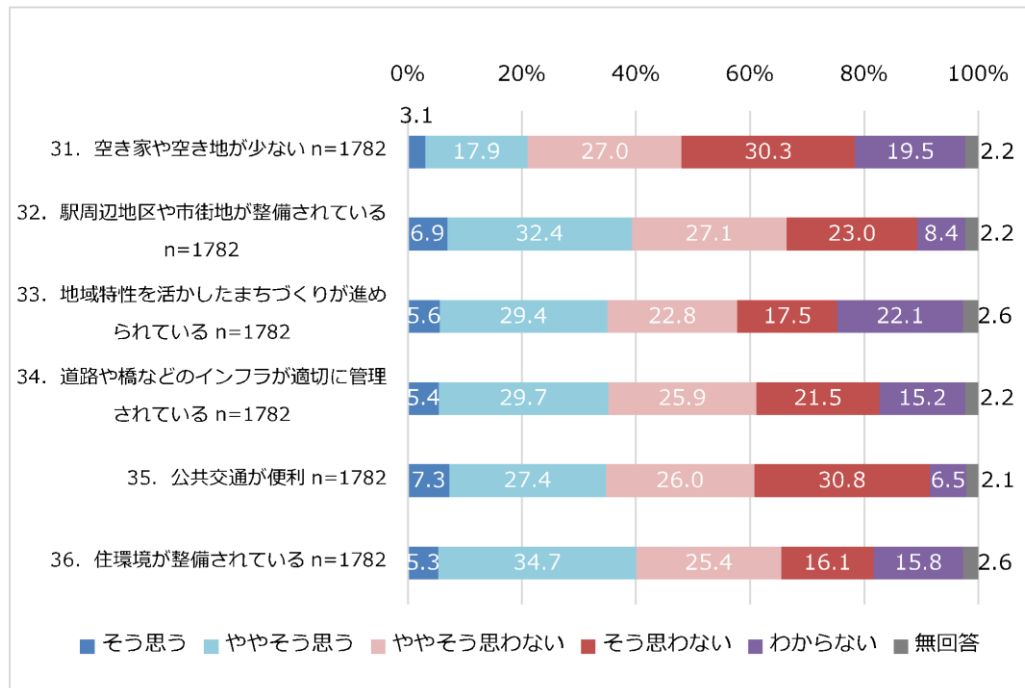
一方、「空き屋や空き地が少ないまち」については「思わない・やや思わない」が6割を超えている。また、「公共交通が便利なまち」についても「思う・やや思う」が40.0%に対して「思わない・やや思わない」が54.4%と高くなっている。

N = 1658



■令和3年度調査

▼快適な暮らしを支える都市基盤づくりについて

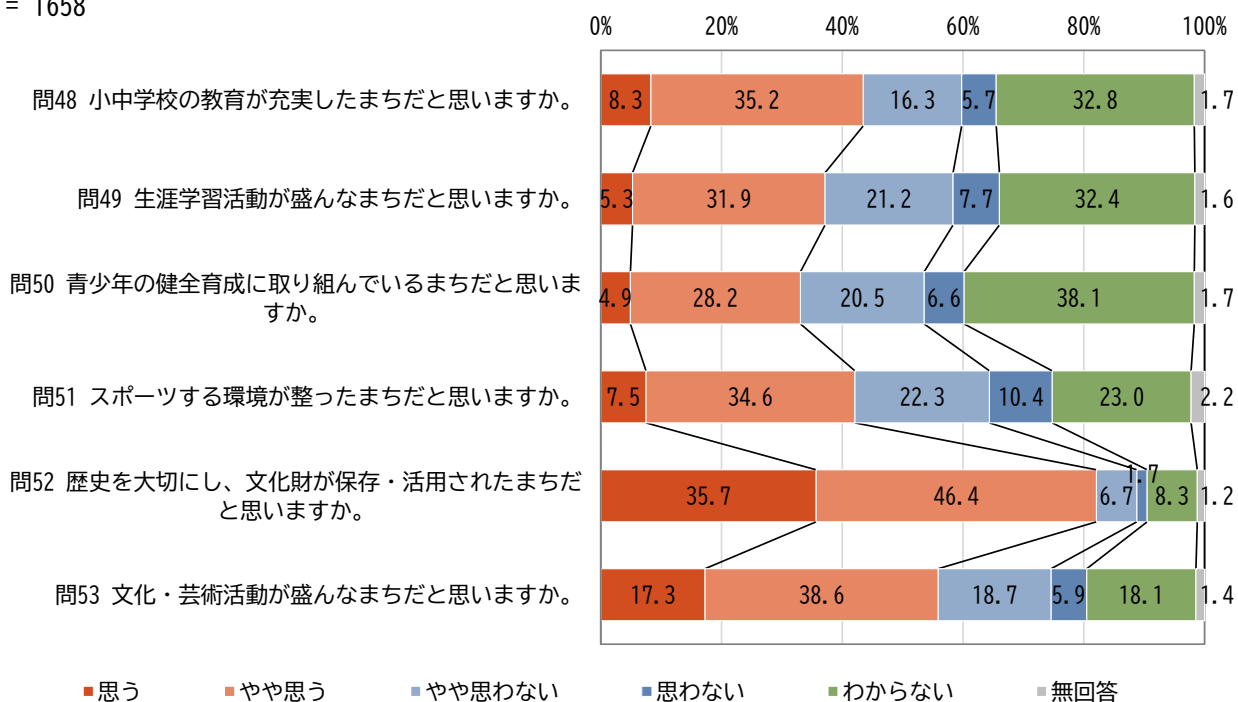


問 48～問 53 学習・スポーツについて

学習・スポーツ分野では、「歴史を大切にし、文化財が保存・活用されたまち」と「思う・やや思う」82.1%と非常に高く、犬山市の歴史文化は大きな強みといえる。「文化・芸術活動が盛んなまち」も 55.9%と比較的高い。

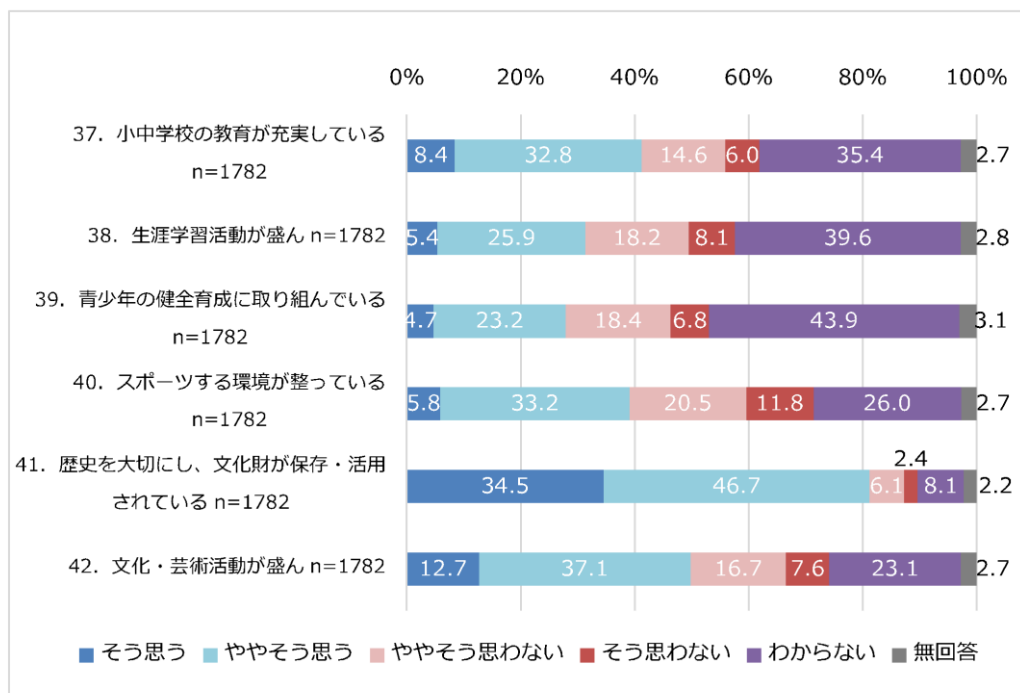
一方、「小中学校の教育が充実したまち」、「生涯学習活動が盛んなまち」、「青少年の健全育成に取り組んでいるまち」では「わからない」が3割前後と高く、取組の認知不足がうかがえる。

N = 1658



■令和3年度調査

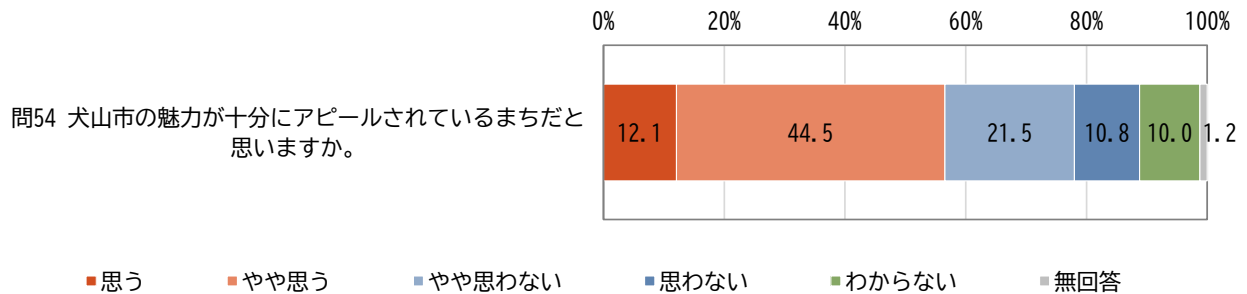
▼学習・スポーツについて



問 54 総合評価

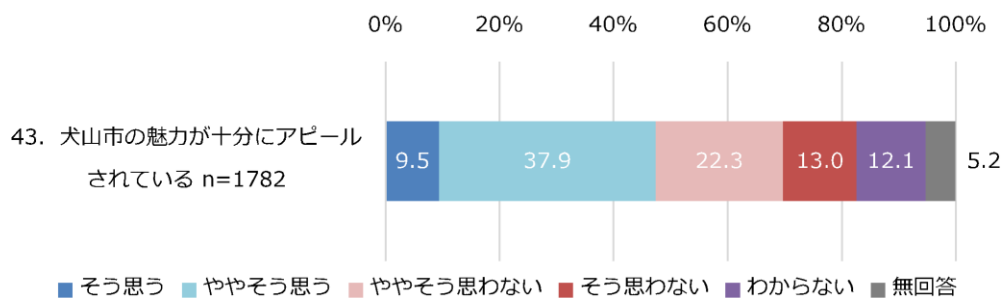
犬山市の魅力が十分にアピールされているまち」と「思う・やや思う」は 56.6%であり、一定の発信効果はあるものの、「思わない・やや思わない」も 32.3%ある。

N = 1658



令和3年度調査

▼総合評価



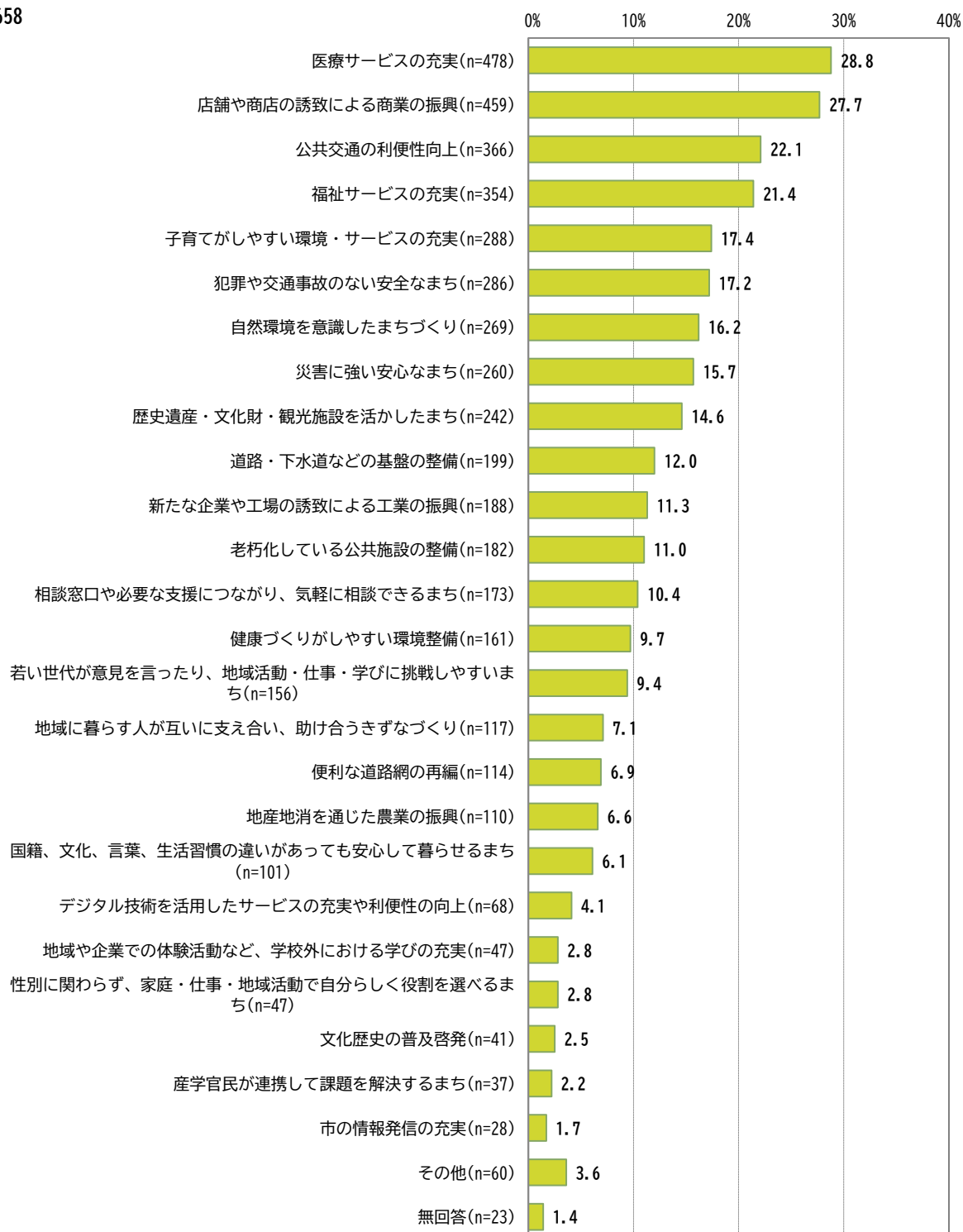
6)今後のまちづくりについて

問55 犬山市は、今後、どのような「まち」を目指すべきだと思いますか。

今後、目指すべきまちづくりでは、「医療サービスの充実」28.8%、「店舗や商店の誘致による商業の振興」27.7%、「公共交通の利便性向上」22.1%、「福祉サービスの充実」21.4%が上位となっており、市民の関心は日常生活を支える基礎的サービスに集中している。

今後の政策ニーズとしては、医療・福祉、商業、交通といった生活機能の充実が重視されている。

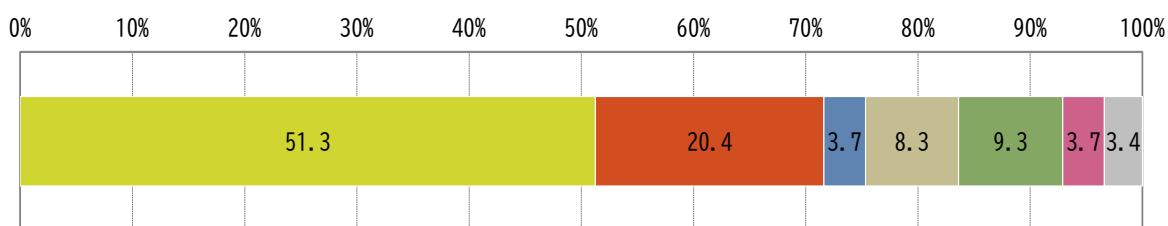
N = 1658



問56 どのような住宅地づくりを進めると良いと思いますか。（1つに○）

住宅地づくりでは、「既存の住宅地において計画的に生活環境を改善する」が51.3%で最も高く、新たな住宅地供給よりも既成市街地の改善を求める意向が強い。

N = 1658



- 既存の住宅地において計画的に生活環境を改善する（日常生活に利用される道路の整備、空き家対策など）
- 市街地で活用されていない土地を住宅地として有効的に活用する
- 市街地において大規模な集合住宅の立地を促進する
- 市街地の拡大や農地の宅地化を進め、新たな住宅地を供給する
- 今のままで良い
- その他
- 無回答

お住まいの地区×問56 どのような住宅地づくりを進めると良いと思いますか。

地区別にみると、いずれの地区でも「既存の住宅地において計画的に生活環境を改善する」が最も高く、特に池野地区では60.0%となっている。一方、城東地区では「市街地の拡大や農地の宅地化を進め、新たな住宅地を供給する」が11.1%と他地区よりやや高く、居住環境改善に加え住宅供給へのニーズもみられる。

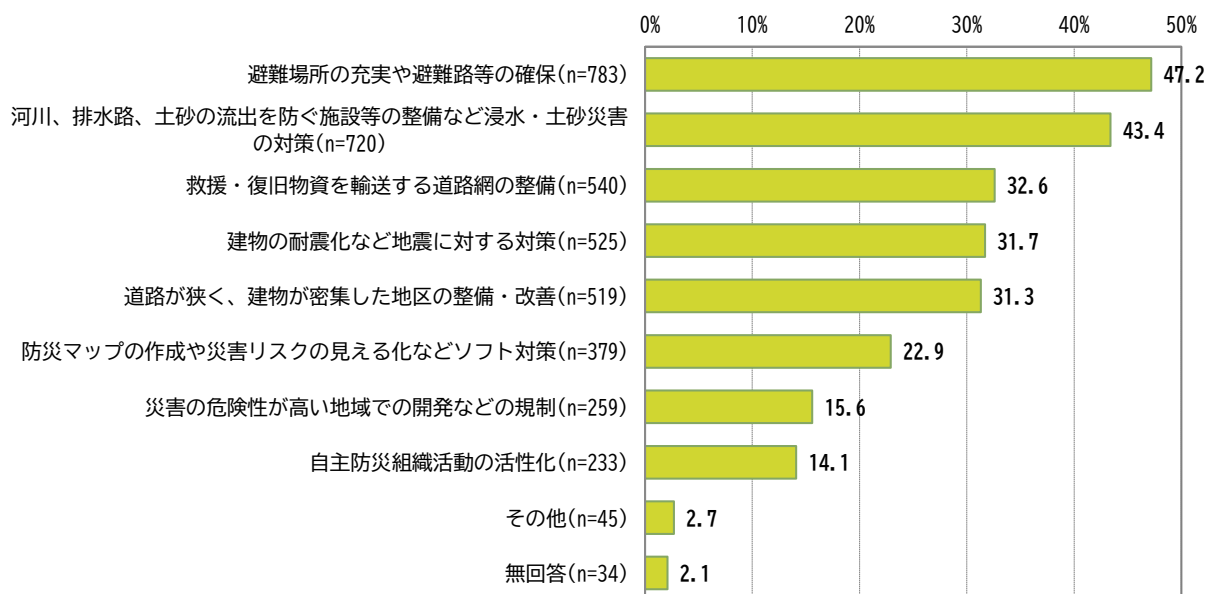
上段:度数 下段:%	合計	既存の住宅地において計画的に生活環境を改善する (日常生活に利用される道路の整備、空き家対策など)	市街地で活用されていない土地を住宅地として有効的に活用する	市街地において大規模な集合住宅の立地を促進する	市街地の拡大や農地の宅地化を進め、新たな住宅地を供給する	今のままで良い	その他
全体	1578	837	335	61	135	150	60
	100.0	53.0	21.2	3.9	8.6	9.5	3.8
犬山	788	421	169	29	64	79	26
	100.0	53.4	21.4	3.7	8.1	10.0	3.3
城東	270	146	54	12	30	20	8
	100.0	54.1	20.0	4.4	11.1	7.4	3.0
羽黒	275	149	56	10	20	28	12
	100.0	54.2	20.4	3.6	7.3	10.2	4.4
楽田	220	106	49	10	20	22	13
	100.0	48.2	22.3	4.5	9.1	10.0	5.9
池野	25	15	7	-	1	1	1
	100.0	60.0	28.0	-	4.0	4.0	4.0

問57 お住まいの地区で、災害対策として特に力を入れるべき取り組みは何だと思いますか。

(3つまで○)

災害対策では、「避難場所の充実や避難路等の確保」47.2%、「浸水・土砂災害の対策」43.4%が上位であり、災害時の避難行動と浸水・土砂災害への備えに対する関心が高い。加えて、「救援・復旧物資を輸送する道路網の整備」、「建物の耐震化など地震に対する対策」、「密集した地区の整備・改善」も3割を超えており、ハード・ソフト両面から地域特性に応じた防災対策を進める必要がある。

N = 1658



お住まいの地区×問57 お住まいの地区で、災害対策として特に力を入れるべき取り組みは何だと思いますか。

地区別にみると、「避難場所の充実や避難路等の確保」は池野地区 57.7%、城東地区 51.1%で高く、「浸水・土砂災害対策」も各地区で4割を超えている。

特に楽田地区では「浸水・土砂災害対策」が46.4%と最も高く、防災面への関心が高いことがうかがえる。一方で池野地区では「救援・復旧物資を輸送する道路網の整備」や「開発規制」も他地区より高く、地域ごとに重視する災害対策に違いがみられる。

上段:度数 下段:%	合計	救援・復旧物資を輸送する道路網の整備	道路が狭く、建物が密集した地区の整備・改善	河川、排水路、土砂の流出を防ぐ施設等の整備など浸水・土砂災害の対策	避難場所の充実や避難路等の確保	建物の耐震化など地震に対する対策	防災マップの作成や災害リスクの見える化などソフト対策	自主防災組織活動の活性化	災害の危険性が高い地域での開発などの規制	その他
全体	1599 100.0	534 33.4	511 32.0	710 44.4	771 48.2	518 32.4	375 23.5	226 14.1	252 15.8	44 2.8
犬山	799 100.0	264 33.0	263 32.9	353 44.2	388 48.6	262 32.8	188 23.5	113 14.1	125 15.6	16 2.0
城東	270 100.0	94 34.8	83 30.7	121 44.8	138 51.1	81 30.0	58 21.5	45 16.7	38 14.1	13 4.8
羽黒	282 100.0	91 32.3	86 30.5	122 43.3	140 49.6	95 33.7	74 26.2	39 13.8	40 14.2	5 1.8
楽田	222 100.0	73 32.9	74 33.3	103 46.4	90 40.5	74 33.3	48 21.6	27 12.2	42 18.9	9 4.1
池野	26 100.0	12 46.2	5 19.2	11 42.3	15 57.7	6 23.1	7 26.9	2 7.7	7 26.9	1 3.8

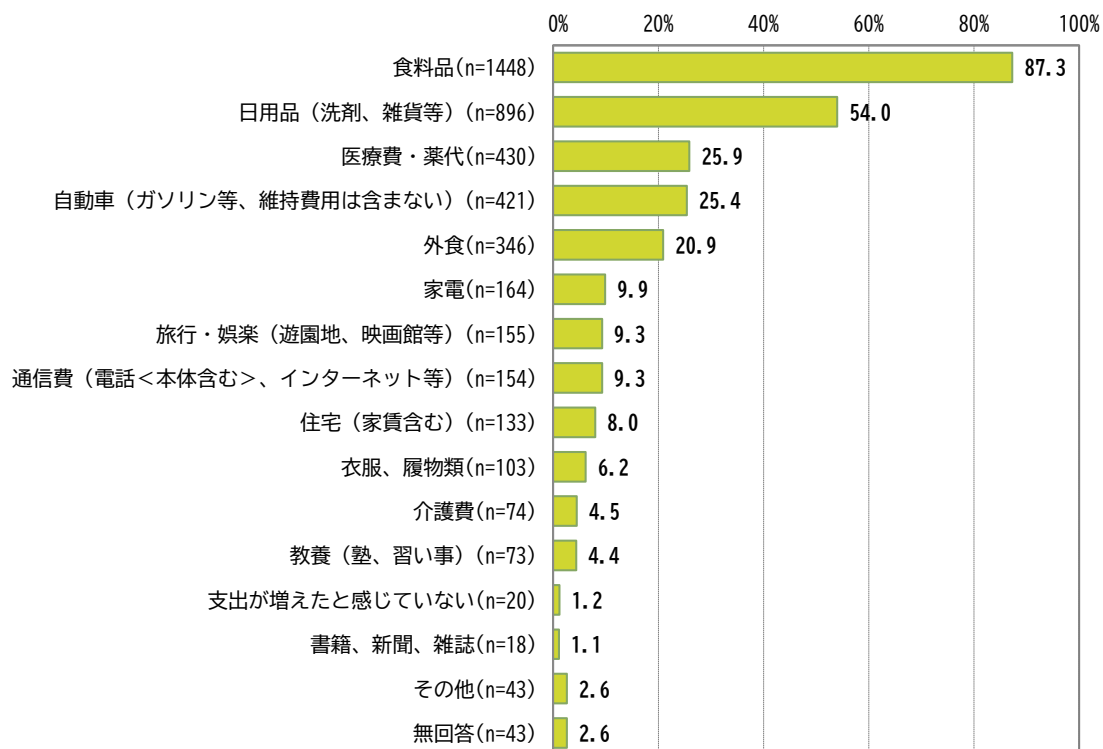
7)社会情勢(その他)について

■生活（物価高騰）

問58 あなたの支出が増えたと感じるものはどれですか。（3つまで○）

支出が増えたと感じるものは「食料品」が87.3%と突出しており、次いで「日用品」54.0%、「医療費・薬代」25.9%、「自動車」25.4%となっている。生活必需品を中心に物価高騰の影響が広く及んでおり、家計負担感は日常生活に直結している。

N = 1658



世帯収入×問 58 あなたの支出が増えたと感じるものはどれですか。

世帯収入別にみても、支出増を感じる項目は全層で「食料品」が最も高く、生活必需品への負担感が所得階層を問わず広がっている。

低所得層では「医療費・薬代」や「日用品」の負担感が比較的高く、生活維持に必要な支出の重さが目立つ一方、高所得層では「外食」や「旅行・娯楽」など選択的支出の増加感もみられ、物価高の影響は年収階層により現れ方が異なる。

上段:度数 下段:%	合計	住宅（家賃含む）	家電	衣服、履物類	自動車（ガソリン等、維持費用は含まない）	書籍、新聞、雑誌	食料品	日用品（洗剤、雑貨等）
全体	1512 100.0	130 8.6	153 10.1	98 6.5	399 26.4	16 1.1	1360 89.9	846 56.0
200万円未満	129 100.0	5 3.9	20 15.5	5 3.9	28 21.7	3 2.3	115 89.1	84 65.1
200～400万円未満	317 100.0	19 6.0	38 12.0	12 3.8	74 23.3	5 1.6	287 90.5	171 53.9
400～600万円未満	249 100.0	23 9.2	21 8.4	17 6.8	62 24.9	4 1.6	232 93.2	147 59.0
600～800万円未満	209 100.0	29 13.9	27 12.9	14 6.7	52 24.9	1 0.5	195 93.3	127 60.8
800～1,000万円未満	159 100.0	17 10.7	14 8.8	8 5.0	51 32.1	1 0.6	137 86.2	82 51.6
1,000万円以上	212 100.0	19 9.0	15 7.1	21 9.9	61 28.8	- -	187 88.2	109 51.4
わからない	237 100.0	18 7.6	18 7.6	21 8.9	71 30.0	2 0.8	207 87.3	126 53.2

上段:度数 下段:%	外食	医療費・薬代	介護費	教養（塾、習い事）	旅行・娯楽（遊園地、映画館等）	通信費（電話＜本体含む＞、インターネット等）	支出が増えたと感じていない	その他
全体	329 21.8	388 25.7	68 4.5	72 4.8	150 9.9	141 9.3	16 1.1	40 2.6
200万円未満	17 13.2	42 32.6	10 7.8	- -	6 4.7	18 14.0	3 2.3	4 3.1
200～400万円未満	48 15.1	115 36.3	25 7.9	5 1.6	29 9.1	39 12.3	2 0.6	9 2.8
400～600万円未満	62 24.9	72 28.9	8 3.2	12 4.8	27 10.8	20 8.0	1 0.4	2 0.8
600～800万円未満	48 23.0	34 16.3	5 2.4	14 6.7	19 9.1	14 6.7	- -	9 4.3
800～1,000万円未満	51 32.1	31 19.5	3 1.9	12 7.5	18 11.3	15 9.4	2 1.3	2 1.3
1,000万円以上	63 29.7	29 13.7	8 3.8	19 9.0	31 14.6	14 6.6	6 2.8	3 1.4
わからない	40 16.9	65 27.4	9 3.8	10 4.2	20 8.4	21 8.9	2 0.8	11 4.6

性別×問 58 あなたの支出が増えたと感じるものはどれですか。

性別では、女性で「食料品」91.5%、「日用品」64.1%が男性より高く、日常生活に密着した支出増を強く感じている。一方、男性は「自動車」28.2%や「外食」26.8%が女性より高く、移動や消費行動に関する負担感がやや目立つ。

上段:度数 下段:%	合計	住宅（家賃含む）	家電	衣服、履物類	自動車（ガソリン等、維持費用は含まない）	書籍、新聞、雑誌	食料品	日用品（洗剤、雑貨等）
全体	1520 100.0	128 8.4	154 10.1	99 6.5	396 26.1	15 1.0	1364 89.7	853 56.1
男性	684 100.0	77 11.3	82 12.0	45 6.6	193 28.2	10 1.5	600 87.7	323 47.2
女性	821 100.0	49 6.0	70 8.5	52 6.3	198 24.1	5 0.6	751 91.5	526 64.1
その他	2 100.0	1 50.0	- -	- -	- -	- -	2 100.0	- -
回答しない	13 100.0	1 7.7	2 15.4	2 15.4	5 38.5	- -	11 84.6	4 30.8

上段:度数 下段:%	外食	医療費・薬代	介護費	教養（塾、習い事）	旅行・娯楽（遊園地、映画館等）	通信費（電話＜本体含む＞、インターネット等）	支出が増えたと感じていない	その他
全体	333 21.9	388 25.5	66 4.3	71 4.7	149 9.8	148 9.7	18 1.2	41 2.7
男性	183 26.8	170 24.9	28 4.1	21 3.1	71 10.4	76 11.1	10 1.5	24 3.5
女性	146 17.8	212 25.8	37 4.5	50 6.1	77 9.4	71 8.6	8 1.0	16 1.9
その他	1 50.0	1 50.0	- -	- -	- -	1 50.0	- -	- -
回答しない	3 23.1	5 38.5	1 7.7	- -	1 7.7	- -	- -	1 7.7

年齢×問 58 あなたの支出が増えたと感じるものはどれですか。

年齢別では、30～50 歳代で食料品や日用品、外食、自動車関連の支出増が高く、子育て・就業世代の家計負担が大きい。65 歳以上では「医療費・薬代」の増加感が高まり、80 歳以上では 46.4% に達している。

世代によって負担を感じる費目が異なるため、子育て・就業世代には生活必需品や燃料費、高齢層には医療・福祉関連費への配慮が重要である。

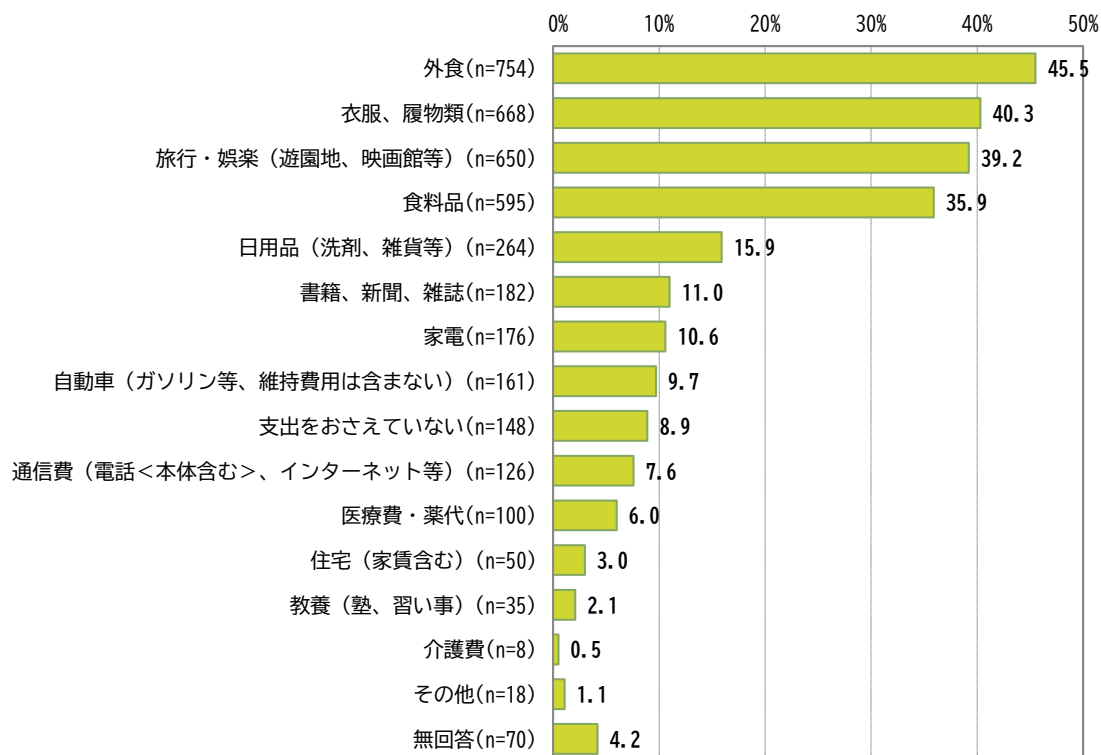
上段:度数 下段:%	合計	住宅（家賃含む）	家電	衣服、履物類	自動車（ガソリン等、維持費用は含まない）	書籍、新聞、雑誌	食料品	日用品（洗剤、雑貨等）
全体	1589 100.0	133 8.4	160 10.1	102 6.4	415 26.1	18 1.1	1424 89.6	881 55.4
18歳、19歳	25 100.0	2 8.0	1 4.0	6 24.0	3 12.0	-	17 68.0	9 36.0
20歳～24歳	54 100.0	7 13.0	5 9.3	8 14.8	20 37.0	-	44 81.5	23 42.6
25歳～29歳	61 100.0	12 19.7	4 6.6	12 19.7	7 11.5	-	47 77.0	31 50.8
30歳～34歳	79 100.0	23 29.1	6 7.6	4 5.1	20 25.3	-	73 92.4	51 64.6
35歳～39歳	83 100.0	16 19.3	6 7.2	4 4.8	22 26.5	2 2.4	76 91.6	51 61.4
40歳～44歳	101 100.0	11 10.9	10 9.9	8 7.9	33 32.7	1 1.0	94 93.1	64 63.4
45歳～49歳	128 100.0	17 13.3	8 6.3	8 6.3	37 28.9	-	117 91.4	81 63.3
50歳～54歳	153 100.0	7 4.6	16 10.5	9 5.9	54 35.3	3 2.0	140 91.5	104 68.0
55歳～59歳	131 100.0	8 6.1	10 7.6	8 6.1	41 31.3	1 0.8	122 93.1	78 59.5
60歳～64歳	151 100.0	8 5.3	15 9.9	7 4.6	40 26.5	2 1.3	131 86.8	77 51.0
65歳～69歳	107 100.0	4 3.7	11 10.3	2 1.9	26 24.3	2 1.9	97 90.7	50 46.7
70歳～74歳	133 100.0	9 6.8	15 11.3	4 3.0	40 30.1	1 0.8	124 93.2	65 48.9
75歳～79歳	174 100.0	5 2.9	23 13.2	8 4.6	35 20.1	2 1.1	155 89.1	92 52.9
80歳以上	209 100.0	4 1.9	30 14.4	14 6.7	37 17.7	4 1.9	187 89.5	105 50.2

上段:度数 下段:%	外食	医療費・薬代	介護費	教養（塾、習い事）	旅行・娯楽（遊園地、映画館等）	通信費（電話＜本体含む＞、インターネット等）	支出が増えたと感じていない	その他
全体	340 21.4	419 26.4	73 4.6	72 4.5	155 9.8	151 9.5	20 1.3	41 2.6
18歳、19歳	9 36.0	4 16.0	1 4.0	-	5 20.0	6 24.0	-	-
20歳～24歳	16 29.6	4 7.4	-	-	17 31.5	6 11.1	-	1 1.9
25歳～29歳	22 36.1	6 9.8	-	2 3.3	10 16.4	2 3.3	1 1.6	7 11.5
30歳～34歳	28 35.4	4 5.1	-	4 5.1	7 8.9	7 8.9	-	2 2.5
35歳～39歳	33 39.8	4 4.8	-	6 7.2	12 14.5	4 4.8	-	3 3.6
40歳～44歳	24 23.8	11 10.9	1 1.0	10 9.9	15 14.9	3 3.0	-	5 5.0
45歳～49歳	23 18.0	22 17.2	-	20 15.6	13 10.2	8 6.3	2 1.6	2 1.6
50歳～54歳	32 20.9	26 17.0	3 2.0	22 14.4	10 6.5	8 5.2	3 2.0	3 2.0
55歳～59歳	36 27.5	29 22.1	6 4.6	1 0.8	7 5.3	12 9.2	3 2.3	3 2.3
60歳～64歳	33 21.9	50 33.1	13 8.6	3 2.0	12 7.9	18 11.9	2 1.3	2 1.3
65歳～69歳	17 15.9	49 45.8	6 5.6	2 1.9	12 11.2	14 13.1	1 0.9	2 1.9
70歳～74歳	18 13.5	52 39.1	11 8.3	1 0.8	13 9.8	20 15.0	1 0.8	3 2.3
75歳～79歳	23 13.2	61 35.1	11 6.3	1 0.6	15 8.6	22 12.6	5 2.9	7 4.0
80歳以上	26 12.4	97 46.4	21 10.0	-	7 3.3	21 10.0	2 1.0	1 0.5

問 59 あなたが支出をおさえているものはどれですか。(3つまで○)

支出をおさえているものは「外食」45.5%、「衣服・履物類」40.3%、「旅行・娯楽」39.2%、「食料品」35.9%が上位となっており、生活必需品のために余暇・消費活動を抑制する傾向がみられる。

N = 1658



世帯収入×問 59 あなたが支出をおさえているものはどれですか。

世帯収入別では、低所得層ほど「食料品」「外食」「旅行・娯楽」などを抑える傾向が強く、生活必需品を含めた節約がみられる。特に 200～400 万円未満では「外食」55.2%、「食料品」46.3%と高く、日常的な消費行動の縮小につながっている。一方、1,000 万円以上では「支出をおさえていない」が 19.0%と相対的に高く、所得層によって消費抑制の度合いに差がみられる。

上段:度数 下段:%	合計	住宅（家賃含む）	家電	衣服、履物類	自動車（ガソリン等、維持費用は含まない）	書籍、新聞、雑誌	食料品	日用品（洗剤、雑貨等）
全体	1492 100.0	50 3.4	165 11.1	627 42.0	150 10.1	177 11.9	545 36.5	240 16.1
200万円未満	127 100.0	3 2.4	21 16.5	57 44.9	22 17.3	8 6.3	57 44.9	24 18.9
200～400万円未満	315 100.0	11 3.5	36 11.4	135 42.9	34 10.8	27 8.6	146 46.3	54 17.1
400～600万円未満	245 100.0	7 2.9	24 9.8	115 46.9	21 8.6	32 13.1	95 38.8	45 18.4
600～800万円未満	209 100.0	6 2.9	24 11.5	87 41.6	25 12.0	27 12.9	72 34.4	37 17.7
800～1,000万円未満	157 100.0	10 6.4	15 9.6	69 43.9	17 10.8	27 17.2	44 28.0	17 10.8
1,000万円以上	211 100.0	4 1.9	22 10.4	70 33.2	17 8.1	30 14.2	51 24.2	26 12.3
わからない	228 100.0	9 3.9	23 10.1	94 41.2	14 6.1	26 11.4	80 35.1	37 16.2

上段:度数 下段:%	外食	医療費・薬代	介護費	教養（塾、習い事）	旅行・娯楽（遊園地、映画館等）	通信費（電話＜本体含む＞、インターネット等）	支出をおさえていない	その他
全体	709 47.5	90 6.0	8 0.5	35 2.3	608 40.8	115 7.7	145 9.7	15 1.0
200万円未満	63 49.6	6 4.7	1 0.8	2 1.6	53 41.7	11 8.7	9 7.1	2 1.6
200～400万円未満	174 55.2	20 6.3	2 0.6	7 2.2	136 43.2	19 6.0	16 5.1	3 1.0
400～600万円未満	118 48.2	19 7.8	- -	7 2.9	105 42.9	23 9.4	17 6.9	3 1.2
600～800万円未満	96 45.9	13 6.2	1 0.5	4 1.9	90 43.1	19 9.1	20 9.6	1 0.5
800～1,000万円未満	62 39.5	9 5.7	- -	7 4.5	64 40.8	15 9.6	17 10.8	- -
1,000万円以上	85 40.3	7 3.3	1 0.5	5 2.4	81 38.4	16 7.6	40 19.0	1 0.5
わからない	111 48.7	16 7.0	3 1.3	3 1.3	79 34.6	12 5.3	26 11.4	5 2.2

性別×問 59 あなたが支出をおさえているものはどれですか。

性別では、女性は「衣服・履物類」46.7%が男性 36.7%より高く、身の回り品を中心に支出を抑える傾向がみられる。男性は「自動車」13.4%や「家電」13.1%が女性より高く、支出抑制の対象に差がある。

上段:度数 下段:%	合計	住宅（家賃含む）	家電	衣服、履物類	自動車（ガソリン等、維持費用は含まない）	書籍、新聞、雑誌	食料品	日用品（洗剤、雑貨等）
全体	1496 100.0	47 3.1	164 11.0	632 42.2	142 9.5	177 11.8	549 36.7	248 16.6
男性	671 100.0	34 5.1	88 13.1	246 36.7	90 13.4	84 12.5	245 36.5	99 14.8
女性	810 100.0	13 1.6	76 9.4	378 46.7	51 6.3	92 11.4	299 36.9	146 18.0
その他	2 100.0	- -	- -	1 50.0	- -	- -	- -	- -
回答しない	13 100.0	- -	- -	7 53.8	1 7.7	1 7.7	5 38.5	3 23.1

上段:度数 下段:%	外食	医療費・薬代	介護費	教養（塾、習い事）	旅行・娯楽（遊園地、映画館等）	通信費（電話＜本体含む＞、インターネット等）	支出をおさえていない	その他
全体	708 47.3	90 6.0	7 0.5	35 2.3	614 41.0	118 7.9	144 9.6	16 1.1
男性	319 47.5	48 7.2	1 0.1	16 2.4	273 40.7	56 8.3	77 11.5	9 1.3
女性	380 46.9	42 5.2	6 0.7	19 2.3	336 41.5	60 7.4	66 8.1	6 0.7
その他	2 100.0	- -	- -	- -	1 50.0	- -	- -	- -
回答しない	7 53.8	- -	- -	- -	4 30.8	2 15.4	1 7.7	1 7.7

年齢×問 59 あなたが支出をおさえているものはどれですか。

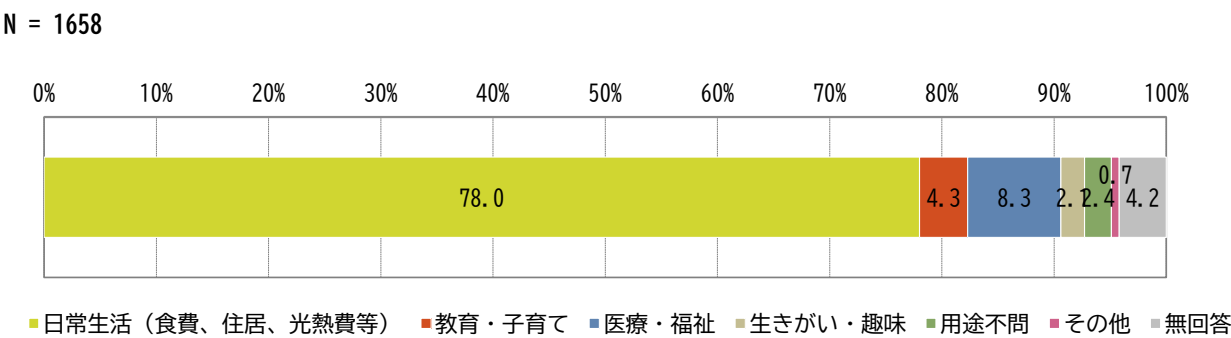
年齢別では、50 歳代以上で「外食」や「旅行・娯楽」を抑える割合が高く、余暇消費の縮小がみられる。30～40 歳代の子育て世代では「衣服・履物類」や「食料品」を抑える傾向もあり、家計のやりくりが日常生活全体に及んでいる。

上段:度数 下段:%	合計	住宅（家賃含む）	家電	衣服、履物類	自動車（ガソリン等、維持費用は含まない）	書籍、新聞、雑誌	食料品	日用品（洗剤、雑貨等）
全体	1562 100.0	49 3.1	174 11.1	659 42.2	158 10.1	181 11.6	579 37.1	252 16.1
18歳、19歳	25 100.0	-	1 4.0	8 32.0	1 4.0	2 8.0	9 36.0	2 8.0
20歳～24歳	54 100.0	5 9.3	7 13.0	24 44.4	3 5.6	16 29.6	11 20.4	8 14.8
25歳～29歳	61 100.0	7 11.5	4 6.6	20 32.8	4 6.6	7 11.5	15 24.6	9 14.8
30歳～34歳	79 100.0	2 2.5	8 10.1	31 39.2	6 7.6	18 22.8	25 31.6	13 16.5
35歳～39歳	83 100.0	4 4.8	7 8.4	37 44.6	5 6.0	11 13.3	31 37.3	18 21.7
40歳～44歳	101 100.0	5 5.0	12 11.9	50 49.5	6 5.9	12 11.9	29 28.7	14 13.9
45歳～49歳	126 100.0	4 3.2	20 15.9	52 41.3	16 12.7	14 11.1	37 29.4	18 14.3
50歳～54歳	151 100.0	-	22 14.6	64 42.4	17 11.3	29 19.2	45 29.8	21 13.9
55歳～59歳	128 100.0	3 2.3	15 11.7	57 44.5	6 4.7	12 9.4	53 41.4	25 19.5
60歳～64歳	149 100.0	6 4.0	14 9.4	64 43.0	16 10.7	12 8.1	54 36.2	25 16.8
65歳～69歳	107 100.0	3 2.8	12 11.2	48 44.9	6 5.6	11 10.3	45 42.1	16 15.0
70歳～74歳	127 100.0	2 1.6	9 7.1	56 44.1	16 12.6	11 8.7	54 42.5	23 18.1
75歳～79歳	170 100.0	2 1.2	10 5.9	73 42.9	29 17.1	10 5.9	75 44.1	31 18.2
80歳以上	201 100.0	6 3.0	33 16.4	75 37.3	27 13.4	16 8.0	96 47.8	29 14.4

上段:度数 下段:%	外食	医療費・薬代	介護費	教養（塾、習い事）	旅行・娯楽（遊園地、映画館等）	通信費（電話＜本体含む＞、インターネット等）	支出をおさえていない	その他
全体	743 47.6	97 6.2	8 0.5	35 2.2	640 41.0	125 8.0	146 9.3	17 1.1
18歳、19歳	10 40.0	2 8.0	-	-	9 36.0	1 4.0	4 16.0	-
20歳～24歳	13 24.1	7 13.0	-	1 1.9	18 33.3	4 7.4	9 16.7	-
25歳～29歳	25 41.0	3 4.9	1 1.6	2 3.3	24 39.3	4 6.6	7 11.5	-
30歳～34歳	35 44.3	7 8.9	-	6 7.6	30 38.0	13 16.5	6 7.6	1 1.3
35歳～39歳	35 42.2	8 9.6	-	4 4.8	25 30.1	9 10.8	10 12.0	1 1.2
40歳～44歳	42 41.6	10 9.9	1 1.0	3 3.0	38 37.6	10 9.9	7 6.9	3 3.0
45歳～49歳	55 43.7	5 4.0	-	-	46 36.5	9 7.1	15 11.9	2 1.6
50歳～54歳	77 51.0	7 4.6	-	5 3.3	82 54.3	11 7.3	8 5.3	2 1.3
55歳～59歳	63 49.2	2 1.6	-	2 1.6	47 36.7	8 6.3	13 10.2	-
60歳～64歳	73 49.0	6 4.0	-	2 1.3	63 42.3	14 9.4	16 10.7	1 0.7
65歳～69歳	57 53.3	5 4.7	1 0.9	2 1.9	46 43.0	9 8.4	9 8.4	2 1.9
70歳～74歳	64 50.4	7 5.5	1 0.8	2 1.6	59 46.5	12 9.4	11 8.7	-
75歳～79歳	85 50.0	6 3.5	-	2 1.2	73 42.9	12 7.1	14 8.2	2 1.2
80歳以上	109 54.2	22 10.9	4 2.0	4 2.0	80 39.8	9 4.5	17 8.5	3 1.5

問 60 あなたの生活に関わる費用で物価対策支援として必要と思うものはどれですか。（1つに○）

物価対策支援として必要な分野は「日常生活（食費、住居、光熱費等）」が 78.0%と圧倒的に高い。生活全般の基礎的支出への支援を求める声が強く、特定分野に限定した支援よりも、食費・住居費・光熱費など日々の暮らしを下支えする施策が市民ニーズに合致している。



世帯収入×問 60 あなたの生活に関わる費用で物価対策支援として必要と思うものはどれですか。

世帯収入別では、いずれの層でも物価対策支援として「日常生活」が最も高く、所得階層を問わず基礎的生活費への支援ニーズが強い。低所得層では「医療・福祉」の割合も比較的高く、生活費支援と医療・福祉支援を組み合わせる必要がある。一方、中高所得層では「教育・子育て」が1割弱となっているものの、「日常生活」が 8 割前後を占めており、物価高対策は幅広い市民にとって共通課題となっている。

上段:度数 下段:%	合計	日常生活（食費、 住居、光熱費等）	教育・子育て	医療・福祉	生きがい・趣味	用途不問	その他
全体	1489 100.0	1218 81.8	70 4.7	120 8.1	32 2.1	37 2.5	12 0.8
200万円未満	127 100.0	103 81.1	2 1.6	17 13.4	2 1.6	2 1.6	1 0.8
200～400万円未 満	301 100.0	242 80.4	3 1.0	42 14.0	6 2.0	6 2.0	2 0.7
400～600万円未 満	247 100.0	209 84.6	11 4.5	18 7.3	2 0.8	6 2.4	1 0.4
600～800万円未 満	210 100.0	172 81.9	17 8.1	8 3.8	4 1.9	9 4.3	- -
800～1,000万円 未満	158 100.0	126 79.7	15 9.5	8 5.1	6 3.8	3 1.9	- -
1,000万円以上	213 100.0	171 80.3	16 7.5	12 5.6	6 2.8	4 1.9	4 1.9
わからない	233 100.0	195 83.7	6 2.6	15 6.4	6 2.6	7 3.0	4 1.7

年齢×問 60 あなたの生活に関わる費用で物価対策支援として必要と思うものはどれですか。

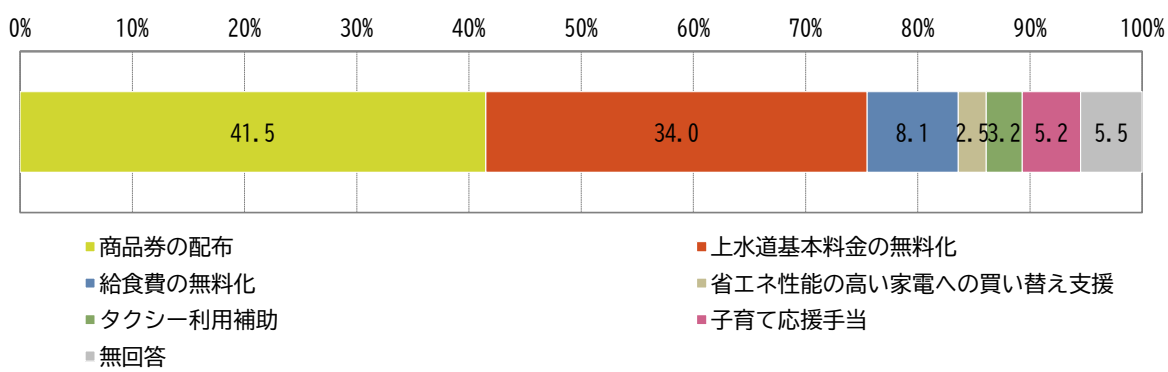
年齢別では、多くの年代で「日常生活」への支援が8割前後を占めるが、55歳以上では「医療・福祉」の割合が高まり、80歳以上では21.8%となっている。高齢層では食費・光熱費に加え、医療・福祉費の負担軽減が重要である。若年層・子育て世代では「教育・子育て」が比較的高く、世代別に重点支援分野を分けて検討することが求められる。

上段:度数 下段:%	合計	日常生活（食費、 住居、光熱費等）	教育・子育て	医療・福祉	生きがい・趣味	用途不問	その他
全体	1562 100.0	1271 81.4	71 4.5	136 8.7	33 2.1	39 2.5	12 0.8
18歳、19歳	25 100.0	21 84.0	1 4.0	1 4.0	2 8.0	- -	- -
20歳～24歳	54 100.0	48 88.9	2 3.7	1 1.9	2 3.7	1 1.9	- -
25歳～29歳	61 100.0	49 80.3	7 11.5	1 1.6	4 6.6	- -	- -
30歳～34歳	79 100.0	66 83.5	8 10.1	1 1.3	1 1.3	2 2.5	1 1.3
35歳～39歳	84 100.0	68 81.0	10 11.9	2 2.4	1 1.2	1 1.2	2 2.4
40歳～44歳	101 100.0	84 83.2	10 9.9	1 1.0	3 3.0	1 1.0	2 2.0
45歳～49歳	128 100.0	99 77.3	9 7.0	7 5.5	6 4.7	5 3.9	2 1.6
50歳～54歳	152 100.0	125 82.2	13 8.6	7 4.6	3 2.0	4 2.6	- -
55歳～59歳	130 100.0	119 91.5	2 1.5	6 4.6	- -	- -	3 2.3
60歳～64歳	150 100.0	123 82.0	4 2.7	14 9.3	3 2.0	6 4.0	- -
65歳～69歳	105 100.0	91 86.7	1 1.0	9 8.6	- -	3 2.9	1 1.0
70歳～74歳	130 100.0	109 83.8	2 1.5	14 10.8	1 0.8	4 3.1	- -
75歳～79歳	166 100.0	126 75.9	1 0.6	29 17.5	4 2.4	5 3.0	1 0.6
80歳以上	197 100.0	143 72.6	1 0.5	43 21.8	3 1.5	7 3.6	- -

問 61 犬山市が臨時的に行った施策で物価高騰対策として有効であったものはどれですか。(3つまで○)

臨時的な物価高騰対策では、「商品券の配布」41.5%、「上水道基本料金の無料化」34.0%が有効と評価されている。市民にとって効果を実感しやすい直接的な家計支援や、生活基盤に関わる負担軽減策が評価されやすい傾向がある。

N = 1658



世帯収入×問 61 犬山市が臨時的に行った施策で物価高騰対策として有効であったものはどれですか。

世帯収入別では、200 万円未満や 200～400 万円未満で「商品券の配布」が 5 割を超え、直接的で使途が分かりやすい支援策が評価されている。中高所得層では「上水道基本料金の無料化」や「給食費の無料化」も一定の評価があり、生活インフラや子育て費用に関する支援の有効性がうかがえる。

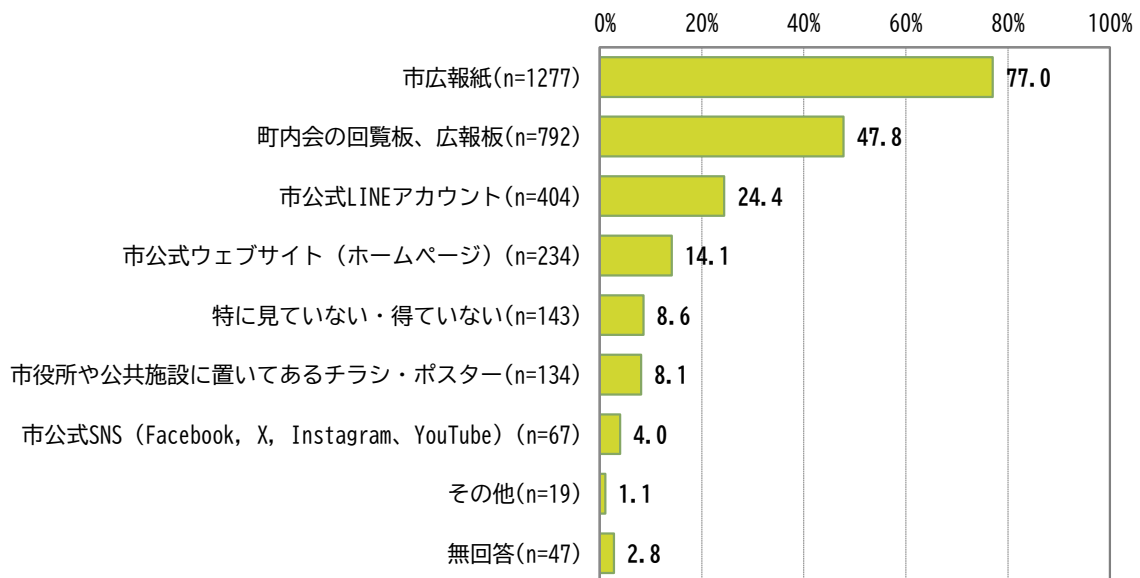
上段:度数 下段:%	合計	商品券の配布	上水道基本料金の無料化	給食費の無料化	省エネ性能の高い家電への買い替え支援	タクシー利用補助	子育て応援手当
全体	1470 100.0	647 44.0	527 35.9	132 9.0	39 2.7	39 2.7	86 5.9
200万円未満	123 100.0	67 54.5	37 30.1	3 2.4	5 4.1	7 5.7	4 3.3
200～400万円未満	301 100.0	154 51.2	111 36.9	7 2.3	6 2.0	16 5.3	7 2.3
400～600万円未満	242 100.0	110 45.5	93 38.4	20 8.3	3 1.2	4 1.7	12 5.0
600～800万円未満	208 100.0	72 34.6	73 35.1	27 13.0	9 4.3	1 0.5	26 12.5
800～1,000万円未満	159 100.0	62 39.0	51 32.1	24 15.1	5 3.1	3 1.9	14 8.8
1,000万円以上	211 100.0	87 41.2	75 35.5	34 16.1	2 0.9	1 0.5	12 5.7
わからない	226 100.0	95 42.0	87 38.5	17 7.5	9 4.0	7 3.1	11 4.9

■市の情報

問62 犬山市からの情報発信について、どのような手法で情報を得ていますか。（すべてに○）

市からの情報入手手段は「市広報紙」が77.0%で最も高く、「町内会の回覧板・広報板」47.8%が続く。紙媒体や地域経由の情報伝達が依然として大きな役割を担う一方、市公式 LINE も24.4%と一定の利用がある。

N = 1658



年齢×問 62 犬山市からの情報発信について、どのような手法で情報を得ていますか。

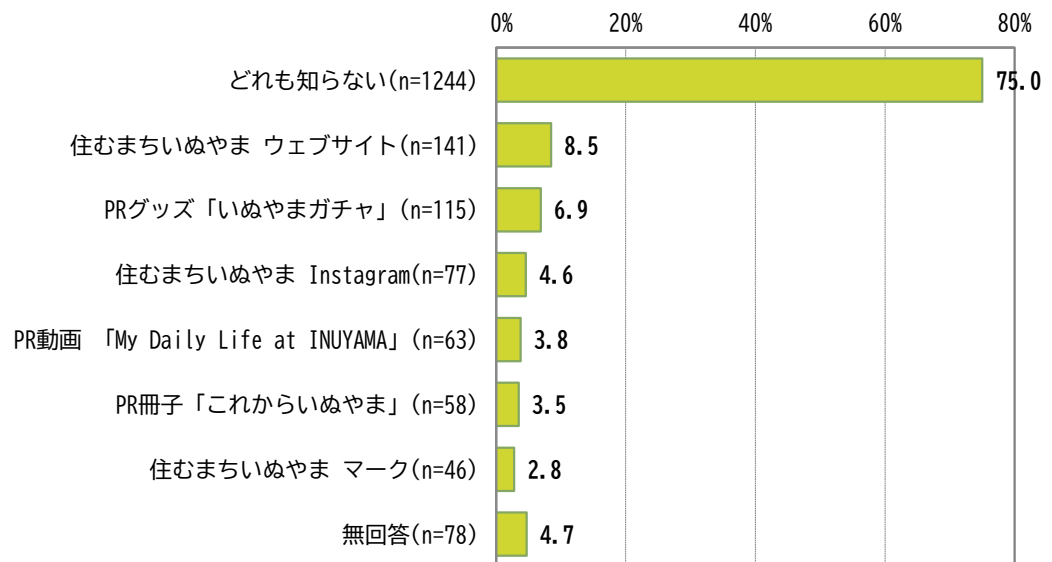
年齢別にみると、65歳以上では「市広報紙」が9割前後、「町内会の回覧板・広報板」も5～7割程度と高く、紙媒体が主要な情報源となっている。一方、18・19歳、30～49歳、50～54歳では「市公式LINEアカウント」の利用割合が3～4割程度と比較的高い。一方、18～34歳では「特に見ていない・得ていない」も2～4割を占めている。

上段:度数 下段:%	合計	市広報紙	町内会の回覧板、 広報板	市役所や公共施設 に置いてあるチラシ・ ポスター	市公式ウェブサイト （ホームページ）	市公式LINEアカ ウント	市公式SNS （Facebook, X, Instagram、 YouTube）	特に見ていない・ 得ていない	その他
全体	1586 100.0	1256 79.2	778 49.1	133 8.4	232 14.6	398 25.1	67 4.2	142 9.0	18 1.1
18歳、19歳	25 100.0	7 28.0	3 12.0	3 12.0	1 4.0	9 36.0	-	11 44.0	-
20歳～24歳	54 100.0	26 48.1	19 35.2	2 3.7	4 7.4	8 14.8	1 1.9	18 33.3	1 1.9
25歳～29歳	61 100.0	31 50.8	11 18.0	4 6.6	6 9.8	10 16.4	-	21 34.4	-
30歳～34歳	79 100.0	50 63.3	19 24.1	6 7.6	8 10.1	23 29.1	5 6.3	19 24.1	1 1.3
35歳～39歳	84 100.0	63 75.0	41 48.8	10 11.9	11 13.1	34 40.5	7 8.3	8 9.5	-
40歳～44歳	101 100.0	82 81.2	39 38.6	7 6.9	19 18.8	29 28.7	8 7.9	6 5.9	1 1.0
45歳～49歳	128 100.0	101 78.9	52 40.6	13 10.2	25 19.5	41 32.0	7 5.5	6 4.7	2 1.6
50歳～54歳	153 100.0	118 77.1	67 43.8	7 4.6	23 15.0	56 36.6	8 5.2	11 7.2	2 1.3
55歳～59歳	131 100.0	95 72.5	58 44.3	6 4.6	27 20.6	35 26.7	3 2.3	13 9.9	2 1.5
60歳～64歳	151 100.0	124 82.1	80 53.0	10 6.6	28 18.5	35 23.2	9 6.0	10 6.6	1 0.7
65歳～69歳	107 100.0	97 90.7	57 53.3	4 3.7	18 16.8	27 25.2	3 2.8	4 3.7	-
70歳～74歳	132 100.0	117 88.6	82 62.1	20 15.2	19 14.4	25 18.9	6 4.5	4 3.0	2 1.5
75歳～79歳	173 100.0	159 91.9	111 64.2	15 8.7	22 12.7	40 23.1	8 4.6	4 2.3	3 1.7
80歳以上	207 100.0	186 89.9	139 67.1	26 12.6	21 10.1	26 12.6	2 1.0	7 3.4	3 1.4

問 63 犬山市では「住むまち」として愛着を深めるための活動を行っていますが、次のうちどれを知っていますか。
(すべてに○)

「住むまち」として愛着を深めるための活動については、「どれも知らない」が 75.0%と非常に高く、関連する PR 活動の認知は限定的である。

N = 1658



年齢×問 63 犬山市では「住むまち」として愛着を深めるための活動を行っていますが、次のうちどれを知っていますか。

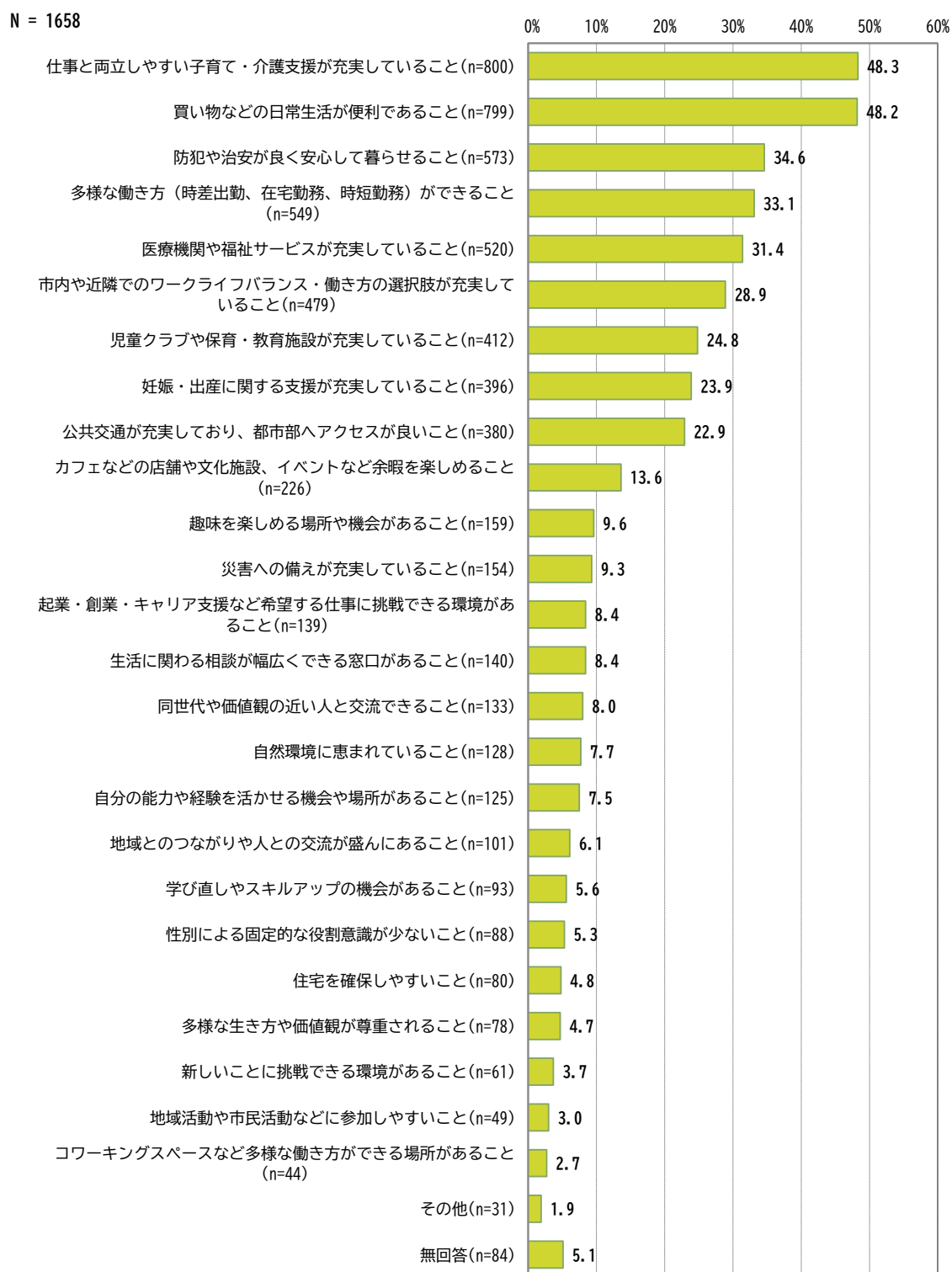
年齢別にみても、「どれも知らない」が全ての年代で最も高く、特に 18・19 歳（88.0%）、25～29 歳（90.2%）では 9 割前後を占めており、若年層に愛着醸成に関する市の取組が十分浸透していない状況がうかがえる。一方、35～39 歳では「どれも知らない」が 63.1%と比較的低く、「いぬやまガチャ」17.9%の認知度が他の年代より高い。また、35～39 歳や 45～49 歳、75 歳以上では「住むまちいぬやまウェブサイト」の認知が 1 割を超えている。

上段:度数 下段:%	合計	PR動画「My Daily Life at INUYAMA」	住むまちいぬやま ウェブサイト	住むまちいぬやま Instagram	住むまちいぬやま マーク	PR冊子「これか らいぬやま」	PRグッズ「いぬ やまガチャ」	どれも知らない
全体	1555 100.0	63 4.1	140 9.0	76 4.9	45 2.9	58 3.7	114 7.3	1220 78.5
18歳、19歳	25 100.0	- -	1 4.0	1 4.0	- -	- -	1 4.0	22 88.0
20歳～24歳	54 100.0	3 5.6	4 7.4	3 5.6	- -	1 1.9	3 5.6	43 79.6
25歳～29歳	61 100.0	- -	2 3.3	- -	1 1.6	1 1.6	3 4.9	55 90.2
30歳～34歳	79 100.0	2 2.5	5 6.3	8 10.1	2 2.5	- -	6 7.6	63 79.7
35歳～39歳	84 100.0	6 7.1	11 13.1	7 8.3	7 8.3	4 4.8	15 17.9	53 63.1
40歳～44歳	101 100.0	3 3.0	8 7.9	9 8.9	1 1.0	3 3.0	12 11.9	76 75.2
45歳～49歳	128 100.0	9 7.0	17 13.3	6 4.7	8 6.3	3 2.3	18 14.1	90 70.3
50歳～54歳	153 100.0	3 2.0	13 8.5	4 2.6	2 1.3	2 1.3	19 12.4	124 81.0
55歳～59歳	129 100.0	8 6.2	9 7.0	3 2.3	4 3.1	4 3.1	8 6.2	104 80.6
60歳～64歳	149 100.0	5 3.4	7 4.7	8 5.4	3 2.0	6 4.0	9 6.0	121 81.2
65歳～69歳	104 100.0	2 1.9	7 6.7	1 1.0	1 1.0	5 4.8	4 3.8	85 81.7
70歳～74歳	128 100.0	4 3.1	12 9.4	7 5.5	1 0.8	3 2.3	5 3.9	105 82.0
75歳～79歳	165 100.0	10 6.1	18 10.9	8 4.8	5 3.0	11 6.7	5 3.0	131 79.4
80歳以上	195 100.0	8 4.1	26 13.3	11 5.6	10 5.1	15 7.7	6 3.1	148 75.9

■女性活躍

問64 女性が住むまちを選び、そのまちに長く住み続けたいと思うためには、どのようなことが重要だと思いますか。（5つまで○）

女性が長く住み続けたいと思うために重要なことは、「仕事と両立しやすい子育て・介護支援」48.3%、「買い物などの日常生活の便利さ」48.2%が最も高く、防犯・治安、多様な働き方、医療・福祉も上位に挙がっている。



性別×問 64 女性が住むまちを選び、そのまちに長く住み続けたいと思うためには、どのようなことが重要だと思いますか。

性別でみると、男女ともに「仕事と両立しやすい子育て・介護支援」が最も高く、女性が住み続けたいまちづくりにおいて、仕事と家庭の両立支援が共通の重要課題となっている。

一方、男性は「妊娠・出産に関する支援」(33.2%)や「児童クラブ・保育教育施設の充実」(30.6%)を女性より高く選択しているのに対し、女性は仕事との両立支援に加え、「買い物などの日常生活が便利であること」53.7%、「防犯や治安が良い」38.8%、「医療機関や福祉サービスの充実」37.4%などを総合的に重視する傾向がみられる。

上段:度数 下段:%	合計	市内や近隣での ワークライフバ ランス・働き方の選 択肢が充実してい ること	起業・創業・キャ リア支援など希望 する仕事に挑戦で きる環境があるこ と	多様な働き方（時 差出勤、在宅勤 務、時短勤務）が できること	コワーキングス ペースなど多様な 働き方ができる場 所があること	仕事と両立しやす い子育て・介護支 援が充実している こと	児童クラブや保 育・教育施設が充 実していること	妊娠・出産に関す る支援が充実して いること	医療機関や福祉 サービスが充実し ていること
全体	1481 100.0	463 31.3	134 9.0	528 35.7	42 2.8	763 51.5	400 27.0	379 25.6	477 32.2
男性	650 100.0	216 33.2	72 11.1	232 35.7	22 3.4	340 52.3	199 30.6	216 33.2	164 25.2
女性	818 100.0	243 29.7	61 7.5	290 35.5	20 2.4	417 51.0	200 24.4	161 19.7	306 37.4
その他	2 100.0	- -	- -	1 50.0	- -	2 100.0	- -	- -	1 50.0
回答しない	11 100.0	4 36.4	1 9.1	5 45.5	- -	4 36.4	1 9.1	2 18.2	6 54.5

上段:度数 下段:%	防犯や治安が良く 安心して暮らせる こと	災害への備えが充 実していること	買い物などの日常 生活が便利である こと	住宅を確保しやす いこと	自然環境に恵まれ ていること	公共交通が充実し ており、都市部へ アクセスが良いこ と	趣味を楽しめる場 所や機会があるこ と	カフェなどの店舗 や文化施設、イベ ントなど余暇を楽 しめること	学び直しやスキル アップの機会があ ること
全体	531 35.9	143 9.7	742 50.1	75 5.1	116 7.8	347 23.4	150 10.1	213 14.4	89 6.0
男性	207 31.8	45 6.9	296 45.5	37 5.7	40 6.2	128 19.7	63 9.7	94 14.5	28 4.3
女性	317 38.8	96 11.7	439 53.7	38 4.6	74 9.0	215 26.3	86 10.5	119 14.5	58 7.1
その他	1 50.0	- -	1 50.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -
回答しない	6 54.5	2 18.2	6 54.5	- -	2 18.2	4 36.4	1 9.1	- -	3 27.3

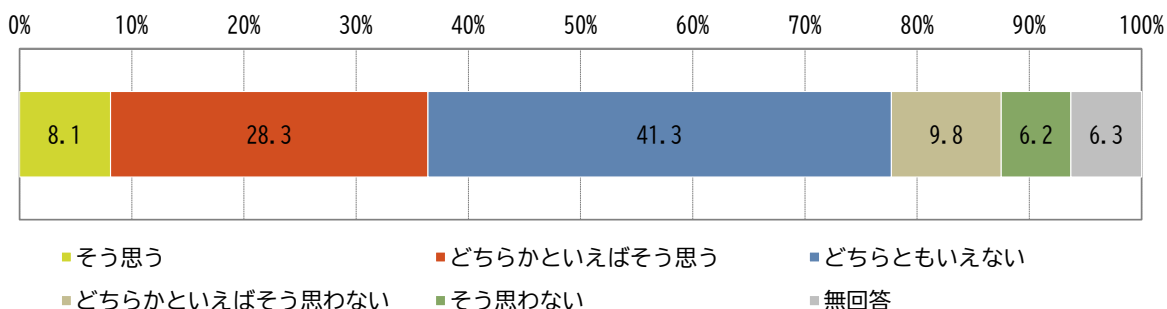
上段:度数 下段:%	新しいことに挑戦 できる環境がある こと	同世代や価値観の 近い人と交流でき ること	地域とのつながり や人との交流が盛 んにあること	自分の能力や経験 を活かせる機会や 場所があること	地域活動や市民活 動などに参加しや すいこと	多様な生き方や価 値観が尊重される こと	性別による固定的 な役割意識が少な いこと	生活に関わる相談 が幅広くできる窓 口があること	その他
全体	57 3.8	120 8.1	95 6.4	117 7.9	41 2.8	75 5.1	84 5.7	126 8.5	27 1.8
男性	27 4.2	56 8.6	51 7.8	62 9.5	18 2.8	28 4.3	36 5.5	42 6.5	10 1.5
女性	30 3.7	63 7.7	44 5.4	55 6.7	23 2.8	47 5.7	46 5.6	84 10.3	15 1.8
その他	- -	1 50.0	- -	- -	- -	- -	1 50.0	- -	- -
回答しない	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 9.1	- -	2 18.2

問 65 あなたは現在の犬山市が、女性が長く住み続けたいと思えるまちだと思いますか。
(1つに○)

現在の犬山市が、女性が長く住み続けたいまちだと思うかについては、「そう思う・どちらかといえばそう思う」が36.4%にとどまり、「どちらともいえない」が41.3%で最も高い。

明確な否定は少数である一方、「どちらともいえない」と積極的に評価しきれていない層が多く、女性の定住意向を高めるには、働き方、子育て・介護、買い物、交通、安全、医療福祉を横断した暮らしやすさの向上が求められる。

N = 1658



性別×問 65 あなたは現在の犬山市が、女性が長く住み続けたいと思えるまちだと思いますか。

性別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、男性31.4%に対し女性45.6%となっており、女性の方が現在の犬山市を女性が住み続けたいまちとして評価している。一方、男性では「どちらともいえない」が48.7%と半数近くを占めており、女性の暮らしやすさに対する評価を判断しきれていない層が多い。

上段:度数 下段:%	合計	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらともいえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
全体	1466 100.0	124 8.5	449 30.6	643 43.9	152 10.4	98 6.7
男性	649 100.0	52 8.0	152 23.4	316 48.7	82 12.6	47 7.2
女性	804 100.0	70 8.7	297 36.9	320 39.8	68 8.5	49 6.1
その他	2 100.0	- -	- -	2 100.0	- -	- -
回答しない	11 100.0	2 18.2	- -	5 45.5	2 18.2	2 18.2